

令和 5 年 度

教育委員会定例会（7月）議事録

四條畷市教育委員会事務局

教育委員会定例会

1 開催日時・場所

令和5年7月26日(水) 10時00分から15時46分まで
四條畷市役所 東別館2階 201会議室

2 出席委員

教 育 長	植田 篤司
教育長職務代理者	山本 博資
委 員	佃 千春
委 員	河田 文
委 員	尾崎 靖二

3 事務局出席者

教 育 部 長	阪本 武郎	教 育 部 次 長 兼 学 校 教 育 課 長	花岡 純
教 育 部 副 参 事 兼 学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長	賀藤 久道	教 育 支 援 セ ン タ ー 長 兼 学 校 教 育 課 指 導 担 当 課 長	広谷 光輝
教 育 総 務 課 長	古市 靖之	ス ポ ー ツ ・ 文 化 財 振 興 課 長 (青少年育成課長事務取扱)	神本 かおり
教 育 総 務 課 長 代 理 兼 主 任	木邨 勇貴	ス ポ ー ツ ・ 文 化 財 振 興 課 長 代 理 兼 主 任	實盛 良彦
図 書 館 長 兼 主 任 兼 田 原 図 書 館 主 任	田中 学		

4 その他出席者 教科書選定委員会委員長 木村 実

5 議事録作成者 教 育 総 務 課 織田 紗樹

6 付議案件

議案 第20号	令和6年度使用四條畷市立学校教科用図書の採択について
報告 第12号	令和5年度教育委員会事務局職員人事について
報告 第13号	四條畷市教育委員会指定管理者選定・評価委員会委員の委嘱について
報告 第14号	史跡飯盛城跡保存活用計画(原案)の策定について

植田教育長	<p>みなさま、おはようございます。 ただ今から7月の教育委員会定例会を開催します。 会議の成立状況について、事務局から説明をお願いします。</p>
古市教育総務課長	<p>本日、尾崎委員が議案第20号について、教科用図書の出版社の編集業務に携わっていることから地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第6項の規定に基づき議事に参与できないため、本議案の終了後から参加される旨を確認しています。よって現時点で教育長及び教育委員3人の出席となり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定に基づき、会議が成立していることを報告いたします。</p>
植田教育長	<p>それでは、四條畷市教育委員会会議規則第5条第2号の規定に基づき議事録署名者の指名を行います。 本日の議事録署名者は、山本教育長職務代理者をお願いいたします。</p> <p>それでは議事に入ります。</p> <p>議案第20号、令和6年度使用四條畷市立学校教科用図書の採択についてを議題といたします。</p> <p>事務局から本件の内容説明を願います。</p>
広谷教育支援センター長兼学校教育課指導担当課長	<p>議案第20号、令和6年度使用四條畷市立学校教科用図書の採択について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号及び義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条の規定により採択を求めるものでございます。</p> <p>提案理由といたしまして、令和6年度に四條畷市立小中学校で使用する教科用図書の採択を求めため、本案を提案いたしました。</p> <p>それではまず、お配りさせていただいております資料に沿いましてご説明させていただきます。</p> <p>まず1点めが、「令和6年度使用教科書採択事務の経過報告」でございます。 教科書採択に関しまして、教育委員会定例会及び選定委員会・調査員会・見本本の移動展示及び教科書センターにおける展示等について、現在までの日程等をお示しさせていただいております。</p> <p>2点めは、「令和6年度使用四條畷市立小学校教科用図書の採択に係る答申」でございます。</p> <p>本日は、この答申をもとにして、本市公立小中学校で来年度から使用する教科用図書について、どの発行者の教科書を採択するか決定していただき</p>

<p>(広谷教育支援センター長兼学校教育課指導担当課長)</p>	<p>ますようご審議をよろしくお願ひいたします。</p> <p>なお、ここからは諮問いただきました選定委員会の委員長であります、岡部小学校 木村校長よりご説明させていただきます。</p>
<p>木村選定委員会委員長</p>	<p>選定委員会委員長の四條畷市立岡部小学校校長の木村と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、まずは、答申の趣旨についてご説明いたします。</p> <p>四條畷市立学校教科用図書選定委員会は、令和5年5月23日に四條畷市教育委員会から、令和6年度使用四條畷市立小学校教科用図書の採択に係る諮問を受けました。</p> <p>当選定委員会は、令和6年度に四條畷市立小学校で使用する教科書について調査員会の設置を決定し、各小学校長より推薦された各種目3人（英語のみ4人）の調査員に教科書見本の調査、研究を依頼しました。</p> <p>調査員会は、班長を中心に、約1ヶ月間をかけて調査研究を深め、調査事項報告書が作成されました。</p> <p>その結果については、選定委員長及び委員と事務局が、班長より調査事項報告書を受け取り、調査研究の経過と意向を聞き取りました。</p> <p>また、市内の全小学校において、全ての教科書見本が移動展示され、学校ごとにまとめられた学校意見書についても参考とすることにしました。</p> <p>当選定委員会は、教科用図書見本の閲覧と調査研究を行い、大阪府教育委員会の令和6年度使用教科用図書選定資料及び各教科書発行者の教科書内容解説書の研究を行いました。あわせまして、令和6年度に四條畷市立中学校で使用する教科書につきましては、2年間の使用実績を踏まえつつ、令和2年度の調査研究の内容等を活用しながら当選定委員会で調査研究を行いました。</p> <p>このような調査研究や調査事項報告書、各種資料等を総合的に判断し、その特徴をまとめ選定委員会として、本市児童が令和6年度に使用するにふさわしい小学校用教科書の候補を別紙のとおり答申いたします。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございました。今、説明のありました答申の趣旨についてご質問はございませんか。</p> <p>(「なし」の声)</p>
<p>植田教育長</p>	<p>なしと認めますので次に進めさせていただきます。</p> <p>それでは選定委員会の調査報告を受けながら審議を行ってまいります、あらかじめここで採択の方法についてお諮りいたします。</p> <p>まずは令和6年度使用四條畷市立小学校教科用図書について国語から道徳までの13種目でございますが、国語より順に1種目ずつ報告、審議、採択</p>

(植田教育長)	<p>と進め、続いて令和6年度使用四條畷市立中学校教科用図書について報告、審議、採択と進めるということでいかがでしょうか。</p>
植田教育長	<p>(「異議なし」の声)</p> <p>異議なしとのお声がありましたので、そのように進めさせていただきます。また、13種目が終了いたしました後で、私より採択についての最終確認をさせていただきます。</p> <p>それでは、審議に入ります。木村選定委員長、国語から報告をお願いします。</p>
木村選定委員会委員長	<p>それでは答申の2ページからをご覧ください。</p> <p>国語は3社から教科書が出版されております。</p> <p>どの教科書も国語の目標「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することをめざす。」を踏まえよく工夫されていました。</p> <p>国語の内容である「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域が取り扱っている教材や言語活動を取り扱っている箇所、情報機器の活用や漢字の取扱いなど様々な観点から特徴があげられました。</p> <p>新学習指導要領の内容を意識して対話的な学びやより良い言語感覚を養えること、また他教科との関連がいかに関わっているかなどが検討の観点になりました。</p> <p>以上でございます。</p>
植田教育長	<p>それぞれの教科書を読まれてのご意見をお聞かせ下さい。</p>
河田委員	<p>東京書籍について、言葉の力の獲得を国語学習の要点として学習の流れが構成されていることがわかりました。單元ごとに言葉の力と学習の流れが示されていて何をどのように学んでいくのかがわかりやすいと思います。単元の扉のページには、内容に沿った大きな写真が掲載されていて、子どもたちが興味を持って学習に入れる工夫がされていると思いました。SDGsや環境、資源、伝統などに関連する教材が多くあり、国語学習から現在の諸課題を学び、国語以外の分野に発展させられる点も良いと思いました。</p> <p>次に教育出版について、全学年上下巻に分かれているので軽くて子どもたちにも持ち運びがしやすいと思います。1年間で学ぶことが見開きで掲載され、單元ごとの目標が最初のページに示されているので何をどのように学んでいくのか、わかるように工夫されている点が良いと思います。また、国語の学習を通して、SDGsや社会の課題について考えられる單元があるのは良いと思いました。</p>

<p>(河田委員)</p>	<p>最後に光村図書について、国語の学びを見わたそうがブックインブックになっていて、どう学んでいくのかや1年間の見通しを確認しやすい工夫がされている点が良いと思います。見通しをもとうは、学習を進める際に単元の内容のどこに注目すれば良いかがわかりやすいと思いました。言葉の宝箱や図を使って考えようは、他の教科や活動にも活用できると思います。また、この本、読もうで本の紹介がされ、読書活動を促している点が良いと思いました。以上です。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>国語については3社を読ませていただきましたが、いずれについても言葉による見方、考え方を中心に言語活動をいかに発展させていくかという観点で書かれていると思います。特に各社ともいろんな工夫があり、その中で注目したのは付録で、例えば東京書籍では5年に宮沢賢治、4年に本文の中にもある小林豊のせかいいちうつくしい村へかえるといった関連した文章が載っていたり、教育出版であれば6年にブラッキーの話や正岡子規、光村図書であれば、平和のとりでを築く、4年に手ぶくろを買いになど、注目する作品が載っているのが非常に良かったと思いました。</p> <p>東京書籍は、河田委員が言われたように、言葉の力ということを中心に置かれていて、学習の流れが見通し、取組み、振り返るという形で、きっちりと言葉の力を確認して生かそうというところで生活実態をうまく使えるような工夫をしているのが、良かったと思います。それから情報のとびらという項目を2年生から6年生までずっと続けているところが一貫性があって良いと思いました。</p> <p>教育出版も同じように学習の流れとしては、確かめよう、詳しく読もう、まとめよう、伝えようというふうにパターン化している流れが、非常に良かったと思いますし、言葉の道具箱について、選定委員会の答申にもありますように、言語活動に活用できるので非常に良いと思いました。この出版社は、5・6年生が分冊ですので、それによる影響だと思いますが、行間が広く読みやすく、さらに5年生で、宮沢賢治の雪わたりという特徴的な作品を20数ページにわたって掲載しており、子どもたちにはわかりやすいというか、触れて良い作品を載せているという印象を持ちました。</p> <p>光村図書につきましては、問いをもとうというところで、選定委員会の答申にもありますが、子どもたちが学習内容を見出しやすいというところでは、とても良い発問をしていると思いますし、それを目標で、とらえよう、ふかめよう、まとめよう、ひろげようという形でパターン化しているところで、パターンをふまえていけば、読む、聞く、話す、書くということが明確になるような編集をされているというふうに思います。注目したのは1・2年生の言葉、3年生からは言葉に注目しようということで、言葉による見方、考え方ということ、きっちりと注目されていることは、要するに言語活動を意識した編集であると感じました。以上です。</p>

<p>佃委員</p>	<p>3社とも話す、聞く、書く、読むの各言語活動において、問題解決的な学習に取り組むことで、人との関わり合いの中で伝え合う力を深め、思考力や創造力を養う内容となっていること、そして学び方の工夫としても、学習過程は学びの見通しが持てるように設定されていて、個々の学びから伝え合うなどの言語活動を通じて、個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実するよう工夫されていると、3社ともそういう内容になっているなと思いました。</p> <p>その中で東京書籍は、皆さんおっしゃっていますけれども、最初の言葉の力というのがキーワードとなって、思い出そう、見通す、取り組む、ふり返る、生かそうと繋がり、そして身につけた言葉の力を他の教科や学習や毎日の生活の中でも生かしていこうという、そういった編集にされているところはとても良いと思いましたし、冒頭に、国語のノートの作り方とともに、デジタルノートの作り方というものも掲げられていたのが印象的でした。</p> <p>教育出版の方は、目次でSDGsとの関連をしっかりと示され、広がる言葉という中で話すこと、聞くこと、書くこと、読むことでまとめられ、どのような学びで、言葉の力をつけていくのかを確かめられるようになっていると思いました。</p> <p>たしかめよう、くわしくよもう、まとめよう、つたえあおう、そしてふり返ろうという流れで、学習が定着するように工夫されていますし、キャラクターの吹き出しが考えを出し合っている様子で、子どもたちの言語活動も活性化するのではないかと思います。</p> <p>光村図書は、さあ、言葉について学んでいこう。というところで、どうやって学んでいくのかなってところが、最初から見通しをもつ、問いをもつ、話す・聞く、書く、読む、そしてふりかえるという流れができており、目次も、話す・聞く、書く、読むでまとめられているところがとてもわかりやすいと思いました。先ほども山本職務代理が仰っていましたように、選定委員会の資料の中にも、学習ページに言葉に着目しようというところがあって、言葉による見方、考え方に着目させやすいとか、問いをもとうがあることで、学習者がテキストから学習内容を見出しやすい工夫があって、主体的な学習に繋がりやすい、その通りだと思いました。以上です。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>その他本市の子どもたちという観点で見た場合に、もしご意見があればお願いいたします。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>各社とも5・6年生で以前から新聞記事について、非常に注目をして取り上げている部分があります。</p> <p>新聞というのは、この頃子どもたちもあまり読まないというか、家庭で新聞を取らないという中で、こういう記事を取り上げていくということは非常に大事なことというふうには思っています。教育出版につきましては、その</p>

(山本教育長職務代理者)

新聞記事が伝統的な白神山地を取り上げおり、光村図書については、全国紙と地方紙の比較をしている部分があり、東京書籍は新聞の書き方を取り上げており、各社ともとても考えておられるなというふうに思いました。

3社を比較して、一つは、やはり本市の子どもたちに、どういう形で今後は力をつけさせていくかというふうに考えたときに、本市は読書活動を盛んにしており、読書を通じての言語活動に取り組んでいます。光村図書は、1年生から学校図書館を本文の中に取り上げ、6年生で公立図書館を取り上げて、読書活動の充実ということを図っておられます。なおかつ6年生の公立図書館については、写真を取り込んだ形での図書館の活動というのがわかるようになっています。これにつきましては東京書籍も教育出版も取り組んでおられますけれども、一番力を入れているのは、光村図書だと思います。それともう一つ読書活動の観点でいうと、多くの代表的な作品が多い、これは学校意見書でも述べておられる学校がありますけれども、代表的な作品を読むことによって子どもたちの、言語活動、読書活動を高めることができるという意見があります。

光村図書については、他教科との連携をカリキュラムマネジメントを意識して編集されていると考えていますので、私は、本市の国語の教科書については、引き続き光村図書を採択するのが良いのではないかと考えています。

佃委員

その他に自分の考えや思いを伝える力というのも、全国学力テストのいろいろなデータから、まだまだこれからだという印象があります。そういった中では、東京書籍の、インターネットの投稿を読み比べようという6年生の単元では、意見をいろいろ読み比べて、説得の工夫を読み取るという活動があり、仲間と話し合っって考えを深めていこう、そして、立場を明確にしながらか話し合いをしましょうという、そういった話し合いの工夫や伝え方の工夫が使われていて良いなと思いましたが、言葉の力のところで、プレゼンテーションをしようという活動があり、構成メモの作り方から考えが伝わっているか表情などに注意しながら発表を聞くときは、比べて共感するとか、丁寧な視点で書いてあるところが良いなと思いました。

それから光村図書は、6年生で情報と情報をつなげて伝えるときでは、整理して伝えることが学べるように、デジタル機器と私たちという単元でも構成を考えて提案する文書の工夫などが、詳しく載っておりました。

グループで情報を集めて内容を考えたり、集めた情報を付箋に書き出ししたりして書いてみる活動は、やはり協働的な学びに繋がりますし、お互いの考えを伝え合い、高め合い、そして説得力があるように伝えていくという、そういった活動が自然にできるような工夫があるなと思いました。学校意見書の中にも、光村図書の教科書は、各領域ごとの系統性もわかりやすく、各学年で同じ時期につけさせたい力が類似する単元の配置がされているため

(佃委員)	に、指導者も学習者の積み重ねを意識しやすい構成になっているということもありましたのでお伝えしておきます。以上です。
植田教育長	<p>それでは答申内容を勘案し、皆様のご意見をまとめますと、まず、読書を通じた言語活動の促進、それから「問いをもとめ」、「見直しをもとめ」と主体的な学習への啓発が図られているという観点、さらに読む、書く、話す、聞くの各領域の連携と発展、そして、文の構成を考える際、また報告文書を作成する際などのポイントが示されており、いわゆるドキュメンテーションに係る力の向上に役立つ観点から、光村図書出版がよりふさわしいと考えますが、光村図書出版を採択することと決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p>
植田教育長	<p>異議なしと認め、国語の教科書は光村図書出版の教科書を採択することとします。</p> <p>続いて、書写についてお願いいたします。</p>
木村選定委員会委員長	<p>書写は3社から教科書が出版されております。</p> <p>どの教科書も、文字に対する関心を深め、基礎的な内容から日常生活との関連と発展的事項まで、適切な指導内容になっております。</p> <p>毛筆と硬筆の関連性や学習の進めやすさ、手本としてのイメージのわかりやすさ、姿勢や水書、ローマ字の扱い、国語との関連などが検討の観点になりました。以上でございます。</p>
植田教育長	<p>それではそれぞれの教科書を読まれてのご意見をお聞かせください。</p>
山本教育長職務代理者	<p>3社それぞれ比較をさせていただきました。</p> <p>まず東京書籍ですが、1、2年生のスタートの時点での説明、それがとても丁寧で良かったと思います。</p> <p>姿勢であるとか、あるいは鉛筆や筆の持ち方、そういう形の部分が、子どもの側から見れるような写真もありました。さらに、左利きの子どもたちにも対応できるように、大きく扱うということがありましたので、最初に委員長からありましたように、子どもたちに学ぶ楽しさというのを教えることができるのは良いと思いました。</p> <p>それから教育出版につきましては、1、2年生のスタートの時点で、鉛筆の持ち方をとても丁寧に取り扱っておられるというところが、とても良かったと思いますし、3年生につきましては、これはどこの出版社もそうなのですが、用具準備の部分の片付けというところが、教育出版については3ページにわたって書いておられてとても丁寧であったと思います。</p>

(山本教育長職務代理者)	<p>それから光村出版ですが、他社とは違って、1、2年生の段階で、書写体操あるいは整理体操というのを入れています。これについては、書写がどうしても苦手という子どもたちには、体操という部分を入れることによって、ちょっと違うイメージでもって書写に入っていけるのではないかとということで、日常生活で体を動かしているというところの関連からも、この取組みについては、導入としては良かったのではないかと考えています。以上です。</p>
佃委員	<p>私も3社とも系統的に単元が配列されていて、巻頭に学び方や学習の準備、職務代理も仰っていましたが、点画の種類、姿勢や筆の持ち方、用具の片付け方など、丁寧に扱われており、特に光村はタブレットを活用しようという項目があったり、整理体操まで載っていて、行き届いているなと思いました。</p> <p>他教科と関連させた学習活動というものを考えたときに、当初では、生活に広げよう、学びに生かそう、教室では伝えあおう、光村では調査広げたい、もっと知りたいというような扱いがそれぞれ定義されているのですが、特に光村は、書写ブック、これは1年生から学習したことを、日常生活に広げていく工夫ということで、とても良いなと思いました。</p> <p>学校意見書の中にも、パンフレットの書き方などを紹介されていて、国語の授業でも生かそうという意見がありました。以上です。</p>
河田委員	<p>まず東京書籍ですが、書写の学び方で学習の内容や流れが見通せて、振り返りのしやすい構成になっているのが良いと思いました。</p> <p>文字と一緒に文字文化のコラムが載っていて、書写への興味がわき、学習意欲も高まるのではないかと思います。また、他の教科と関連する箇所にリンクマークがあり、書写の学びが広がる工夫がされていて良いと思いました。また、毛筆のページに硬筆で書くところも設けられていて、毛筆で学んだことを硬筆に生かす工夫がされていると思います。</p> <p>教育出版は、全学年に鉛筆の持ち方が示されているのが良いと思いました。目次は1年間で学ぶことが丁寧に書かれていて、学習の内容がわかりやすかったです。書写で学んだことを他の教科や生活で生かせるように、ノートのととり方や観察カードの書き方の例が掲載されていて参考になると思いました。また水書用紙がついていて、毛筆の練習が繰り返しできるというのも良いと思います。</p> <p>光村出版は、毛筆のページに硬筆で書くところが設けられていて、毛筆で学んだことを硬筆に生かせるようになっている点が良いと思います。また、書写体操があったり、動物キャラクターが動作や擬態語で、文字のとめやはらいなどの書き方を説明しているところは、子どもたちが理解しやすく楽しんで書写の学習ができると思いました。書写広げたいでは、国語や生活と関連付けられていたり、防災マップや新聞ポスターの作り方など、様々な教科</p>

(河田委員)	<p>や日常生活に書写を生かせる工夫が掲載されていて良いと思いました。光村図書は水書用紙がついている点が良かったと思います。以上です。</p>
植田教育長	<p>ありがとうございます。 では、なわての子ども達にという観点を踏まえて、ご意見をいただきたいと思ひます。</p>
佃委員	<p>先ほども申し上げましたけども、伝える力の育成という観点では、光村図書の6年生の伝えるってどういうことという單元では、2枚のポスターを比べて、情報が伝わりやすいのはどちらでしょうといった、学び気づきから始まる協働的な学びにも繋がる。そういった活動があり、伝える力をつけるためにも、これはとても大切な学びだなと思ひましたし全体的にお手本が多くあるという印象がいたしました。以上です。</p>
山本教育長職務代理者	<p>私は東京書籍、教育出版、光村出版ともに、墨のすり方に注目をしました。東京書籍はイラストで書いてました。教育出版については、墨液で対応していました。それから光村出版については、写真で対応をしています。というところで実際、墨のすり方がよくわかるのは、写真ではないかなと思ひています。 それから日常生活、先ほど委員長の方から、本市の子どもたちに、国語、あるいは日常生活との関連というふうに言われましたので、その観点で見ますと、東京書籍は、ポスターの書き方等にも注目していますので、日常の学校生活に生かせると思ひます。 教育出版については、4年生から6年生で手紙の書き方、あるいは他教科での書き方など日常生活での関連を追究しています。 光村出版については、日常生活、他教科との関連については、十分すぎるほど、特に国語との関連を追究しているというところ、それから先ほど佃委員が言われましたように、書写ブックで6年間の学びも広げようという発想がありますので、この部分については、非常に本市にとっては、良い教科書と考えています。 学校意見書の方では、挿し絵がわかりやすい、学期の組み立ての説明が非常に丁寧だということ、あるいは答申の中では、二次元コードが充実してて、ローマ字を含む一文字ずつの書き方を確認しているということがありますので、視覚的な学びを光村出版は追究しているという印象です。以上です。</p>
植田教育長	<p>ありがとうございます。 それでは、答申内容を勘案し、皆様方のご意見をまとめますと、まず毛筆と硬筆の比較の関連、それから手本の挿絵が多く、文字を書くに際しイメー</p>

(植田教育長)	<p>ジが鮮明化しやすい。また、カリキュラムマネジメントが図りやすい。特に書写広げたいなどで、日常での活用へブリッジされているという点。またさらには、毛筆の作法、本質に触れている。これらの観点から、光村図書出版がよりふさわしいと思われませんが、光村図書出版を採択することと決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p>
植田教育長	<p>異議なしと認め、書写の教科書は光村図書出版の教科書を採択することとします。</p> <p>続いて、社会についてお願いいたします。</p>
木村選定委員長	<p>社会は3社から教科書が出版されております。</p> <p>3社とも、社会の目標である「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することをめざす。」を踏まえて工夫されていました。</p> <p>文章の記述や分量、写真や挿絵、図、表など資料の配置や程度、知識・技能を活用した問題解決的な学習内容等が検討の観点になりました。以上でございます。</p>
植田教育長	<p>それぞれの教科書を読まれてのご意見をお聞かせ下さい。</p>
河田委員	<p>まず、東京書籍は、5年生と6年生の教科書が2冊に分かれているところは、使いやすさや子どもたちの扱いやすさといった利点があると思いました。学習の進め方は掴む、調べる、まとめる、生かすで構成されていて、主体的に学べるようになってきていると思います。キーワードを『ことば』と示していて、振り返り学習の際に活用できる点は良いと思いました。また、学び方のコーナーでは、資料の見方や話し合いの方法などが具体的に示されていて良いと思います。</p> <p>教育出版は、前の学年の振り返りや学びの手引きがあることで、どのように学習を進めるのかがわかりやすく、掴む、調べる、まとめると見出しが各ページにあり、今何を学んでいるのかがわかりやすい工夫がされていると思います。自分で考えるページは一人ひとりに合った方法で、主体的に課題に取り組むことができるというのが良いと思いました。考えたことや、わかったこと、他の子と共有することで、新たな発見に繋がる工夫も良いと思います。また、白黒写真をカラー化して掲載しているため、より情報をくみ取りやすくなり、子どもたちの興味関心に繋がると思いました。</p> <p>日本文教出版は、1年間の学習計画の一覧になっているのが良かったです。</p>

(河田委員)	<p>単元ごとに示されている私たちの問題は、子どもたちの気づきに繋がり、学習に入っていきやすい工夫がされていると思いました。学び方や調べ方コーナーがあり、学習活動の例を挙げられているところも良いと思います。SDGsの目標シールがあり、楽しんで学習に取り組める工夫があつて良いと思いました。以上です。</p>
<p>佃委員</p>	<p>各社とも問題解決的な学習展開が明示されていまして、それぞれの段階において、それぞれの学習方法が興味深く示されているのが印象的でした。</p> <p>まず、東京書籍は、めあてで掴むを左にわかりやすく示されていて、学びのポイントで活動の例を示されているのがわかりやすかったです。</p> <p>教育出版は、めあてで掴む、調べる、まとめる、など色分けされているのが、授業の進行度が把握しやすいので、これは学校意見書にもありましたが、そう思いました。</p> <p>日本文教は、めあてのところから左下に問題を発見する力を身につけようということで、つけたい力を明示するという点では、授業の最初に強調できるのではと思いました。以上です。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>私も3社を見させていただいてそれぞれ、社会的な見方、考え方、あるいは課題を追究して解決するという、問題解決型の教科とっています。</p> <p>東京書籍につきましては、先ほどもありましたように、4ステップで学習の流れがありますけれども、特に、まとめるというところのページが非常に充実しているなと思いました。あとは学びのポイントで話し合っていくという部分が多くて、協働的な学びを意識した編集をされていると。これにつきましては、答申の中にも、学びのポイントで、学習活動などで主体的・対話的深い学びに繋がるという、そういう意見があります。</p> <p>それから二次元コードにつきましては、誰々さんのお話という形で、子どもが非常に接しやすい。あるいはインタビュー動画が充実していますので、子ども目線で、編集されているなと思っています。</p> <p>SDGsとか防災とかそういう今日的な課題についても非常に充実をしていますし、主権者教育、それから環境問題についても非常に多く取り上げているという印象です。</p> <p>教育出版につきましては、4ステップで学習の流れを同じように作っていますけれども、もっと知りたいというページで非常に深い学びに活用できるというふうに思いますし、学校意見書の中にもありましたけれども、今どのステップにしているんだということが色分けをされていてよくわかるということが良いと思いました。二次元コードについては、まなびリンクということで非常にたくさん設定されています。</p> <p>それから今日的な課題につきましては、SDGs、領土、防災、ICT、それからカリキュラムマネジメントということで、他教科との関連にも十分</p>

<p>(山本教育長職務代理者)</p>	<p>配慮された内容になっていると思います。</p> <p>日本文教出版につきましては、発見、追究、解決掘り下げという3ステップになっていて、特に、学習計画、あるいは単元ごとのノートなど、考えて話し合うという協働学習を意識した教科書だという印象を持ちました。</p> <p>二次元コードについては、数は多いのですが、枠が多く、その部分は主体的な学びに繋がっていくと思っています。</p> <p>それから、SDGsなど今日的な課題につきましては、ほとんど人権については、アイヌであり女性であり働く人であるという事例が多かったり、多くの課題について触れています。</p> <p>学校意見書の中にも、考えようSDGsということで3年生から6年生で設定されていて、日本・世界への意識を高めることができるという、そういう学校意見書もありました。以上です。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは「なわての子どもたちに」という観点でのご意見をいただければと思います。</p>
<p>佃委員</p>	<p>なわての子どもたちに伝え合う力、協働的な学びというものはやはり大切にしていきたいという観点からでも、東京書籍は、町民の文化と新しい学問という單元の中で、江戸時代の美しい絵巻を、何をしているでしょうということから、活動のヒントをいただきながら、話し合いながら進めていく様子、それから、多くの絵で当時の様子やそれを北斎の絵、そしてそれをゴッホの絵とつなげるなど広がりのあるヒントのある資料がたくさんあること、そして、国学・蘭学等にも、さらに自分たちで調べていこう、そしてまとめて、またワークシートにさらに広げるという活動のつなげ方がとても良いなと思いました。</p> <p>それから日本文教出版は、資料の対比の仕方が大変面白くて、例えば、歌舞伎の当時の絵と、今の写真、勸進帳の写真などの対比を示すことで、気づきを話し合いながら授業ができるような、そういった工夫で、活動内容は白いままで解説を薄いピンクで囲んで際立たせるなど、発見しやすい工夫もあるなと思いました。</p> <p>そして、教育出版は、社会科ガイドというものが巻末にありまして、調べ方や写真の取り方、メモのとり方など、活動するときのまとめやヒントがあり、身近な枚方市などが出てくるのも興味深かったです。以上です。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>四條畷の子どもたちのことを考えますと、やはりいろんな今日的な課題に触れて、特に問題解決的な学習ができれば、社会的な面が広がるなど考えています。</p> <p>そういう観点で見ますと、日本文教出版は、今も佃委員からありましたよ</p>

(山本教育長職務代理者)	<p>うに、資料が多くて、その中で選択ができるのですが、6年生では暮らしを重視しているということがあります。その中で、大阪近郊が非常にたくさん取り上げられている。それから先ほど言いましたように、協働的な学習が意識されているという点が良いと考えています。</p> <p>それから東京書籍についても問題解決的な学習で、特に資質・能力の育成という点についてはいろんな観点からの取り上げがあります。</p> <p>特に発展的な学習、6年生で政治、国際関係を非常に重視しています。それで例えば公害であれば、東京書籍とか日本文教出版が5年生で扱っています。それから日本と非常に繋がりが深い国ということで、東京書籍は、他社と比べてさらに2か国、韓国であるとかサウジアラビアであるとかそういうところを取り上げています。</p> <p>あと教育出版については、他社にないところでは、憲法改正の問題について取り上げているところが目新しいと思います。</p> <p>というところで東京書籍が現行、分冊で、特に何も問題が今のところ学校意見書の方からも出てきていませんし、6年生で政治とか国際関係も重視して取り上げるというところで、東京書籍が良いのではないかという印象を持っています。以上です。</p>
佃委員	<p>東京書籍の巻末に過去に学び、未来に生かすというところがありましたが、これまでの単元のカードで、それぞれの学習を振り返ってさらに話し合いで深めるという中に子どもたちの意見が多く載っているのが大変印象的でしたし、全体的に巻末に力を入れているなという印象でした。以上です。</p>
植田教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは答申内容を勘案し、皆様のご意見をまとめますと、まず様々な事例、巻末の資料、これも含めまして発展的に国際社会や国土全体の概観が図られるという点。また学びのポイントによる学習活動の例示によって、主体的対話的で深い学びを調整できるという点。また分冊ということで、ハンドリングが良い。など、こういった観点を踏まえまして、東京書籍がよりふさわしいと思われませんが、東京書籍を採択することとして決定してよろしいでしょうか。</p>
植田教育長	<p>(「異議なし」の声)</p> <p>異議なしと認め、社会の教科書は、東京書籍の教科書を採択することとします。</p> <p>続いて、地図についてお願いします。</p>
木村選定委員長	<p>地図は2社から教科書が出版されております。</p>

<p>(木村選定委員長)</p> <p>植田教育長</p>	<p>2社ともに、社会科の学習の資料として十分な内容を備えたものでした。地図においては、色合いや縮尺等の見やすさの他、資料の活用として、内容の系統、配列、関連資料、多角的な考察を広げ深める際の活用のポイントなどが検討の観点となりました。以上でございます。</p> <p>それでは、それぞれの教科書を読まれてのご意見をお聞かせ下さい。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>地図の2社につきましては、まず東京書籍ですけれども、私が一番地図の中で気にしたところは、地図をどういうふうに子どもたちに教えるか。地図の意味、そういうところを気にしました。東京書籍については、空から町を見るということで、7ページ8ページに、そういうところが非常に細かく書かれていましたけれども、残念ながらイラストだったので、ちょっとイメージがしにくいかなという印象は持ちました。けれども、斜め上からであるとか、そういうところの観点から、非常にうまく書かれていたなと思います。</p> <p>それから中の拡大記事につきましては、特産物が入った地図ということで、子どもたちがその地域のイメージを非常にしやすいような、そういう観点があったかなと思います。あとは統計資料が非常に豊富で、後半に資料もありますし、地図用に挿し絵などもあるという、そういうところが良かったと思います。</p> <p>帝国書院につきましては、先ほど言いました、地図の意味、地図ってなんだろうというところには、写真とイラストで詳しい説明があって、非常に地図の意味というのがよくわかるような設定になっていました。</p> <p>それから日本の自然と防災というのが、防災の仕組み、そういうところを2ページで書いていましたし、もちろん東京書籍にもあったのですが、防災マップ、ハザードマップについては、非常に詳しく掲載をしていたかなと思います。</p> <p>重さ自身は、帝国書院が東京書籍に比べて3割ほどページ数が多いというところに、原因があると思っています。</p> <p>それから持続可能な開発目標ということでSDGsのところについて、非常に多くのページ、世界のSDGsを6ヶ所、それから日本を含めて各地を、4ヶ所とで結構なスペースをとって説明をしているというところは良かったと思います。以上です。</p>
<p>佃委員</p>	<p>2社とも効果的に学習を進められる工夫が大層なされていたと思います。東京書籍の方は、巻頭の見開きで世界地図を示し、特徴あるフォントを活用して、わかりやすく工夫されていたかと思います。</p> <p>それから日本地図は、海の色が世界地図に比べると少し薄くなっていて、見やすくなっていたように思いました。地図の決まり地図帳の使い方が、詳細に載っており、空からまちを見てみようでは、情報量が大変多いなと思い</p>

(佃委員)	<p>ました。</p> <p>帝国書院の方は、巻頭の見開きの世界地図で主要な国の名前のみ掲載されているので見やすく、こんにちのいろいろな言語の紹介などありました。日本地図と関連させて、有名なものをシンプルに配置しているところも良いと思います。地図帳の使い方が14ページにわたって丁寧に解説されていたのも印象的でした。</p> <p>地図の世界へようこそというところでは、建物が大きく立体的にされていて、これはよくわかりました。</p> <p>それから、双方を近畿地方の特に私たちが住んでいる四條畷市を見てみたのですが、北河内というところでは、東京書籍の方には枚方市しか載っていませんでしたけれど、大阪府とその周りのところに四條畷市が載っていました。</p> <p>帝国書院の方は、近畿地方には枚方市、寝屋川市が載っており、特に山脈というものが、立体的に描かれていてわかりやすいなと思いましたし、京阪神のページでは四條畷市、そして身近な枚方パークや生駒山上遊園地まで記載されていたのが印象的でした。以上です。</p>
河田委員	<p>東京書籍は、歴史や文化、産業に関する情報が豊富で、挿し絵や写真が多く、イメージがしやすかったです。社会以外の教科の内容と関連させて学習できるようになっている点が良いと思いました。また、ドローンで撮影した動画もあり、地図帳を照らし合わせてみることで地形などがイメージしやすくなると思います。</p> <p>帝国書院の方は、初めて地図を使う3年生のためのページが多く、地図の活用方法などが丁寧に説明されていて良いと思いました。地図中の特産物や文化財などの表示が適度な大きさや色で、地図が見づらいということはなく良いと思います。土地の高さや地形がわかりやすい色分けがされていて、見やすい地図だと感じました。以上です。</p>
植田教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それではなわての子どもにという観点で見ていただいて、いかがでございましょうか。</p>
山本教育長職務代理者	<p>東京書籍は、挿し絵とか写真が多くて、子どもたちがとても全体をイメージしやすいように作られていると思います。</p> <p>帝国書院は、先ほども佃委員が触れられましたけれども、学校意見書にも、立体感のある地図帳になっているので、非常に子どもたちがイメージをしやすいう、学校意見書に書かれています。</p> <p>また答申の中に、先ほど河田委員も触れられましたけれども、地図を使う基礎・基本というのが、相当なページ数を割いて地図帳のノウハウを示して</p>

(山本教育長職務代理者)	<p>いるという観点があるので、これは本市の子どもたちにとっては、特に初めて地図を使う子どもにとっては、非常に使いやすいという印象を持ちました。</p> <p>ただ帝国書院の場合はページ数が先ほど言いましたように3割ほど多いということが、若干問題かなと思いますけれども、その分、紙質で調整をされているのか、重さ自身はあまり東京書籍とは変わってないと思っております。以上です。</p>
佃委員	<p>先ほども触れられていましたけれども、防災の観点で見たときの東京書籍の日本の自然災害っていうところでは、ハザードマップを扱っているのは大変良いと思いましたが、帝国書院の方では、日本の自然災害と防災に4ページにわたって地震や津波、火山の噴火、水害など掲載したうえで防災マップを作ろうというところまで広げているのが、主体的な姿を育てるには良いなと思えました。以上です。</p>
植田教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、答申内容を勘案し、皆様方のご意見を求めますと、まず地図活用の基本の例示、そしてその発展。次に、防災意識を高める、また持続可能な社会をめざす視点など、今日的課題に対応している点。そして手書き風の山の表現など、立体的描写で視認性が高い。</p> <p>こういった観点から、帝国書院がよりふさわしいと思われませんが、帝国書院を採択することと決定してよろしいですか。</p>
植田教育長	<p>(「異議なし」の声)</p> <p>異議なしと認め、地図の教科書は、帝国書院の教科書を採択することとします。</p> <p>続いて、算数についてお願いします。</p>
木村選定委員長	<p>算数は6社から教科書が出版されております。</p> <p>どの教科書も、算数の目標「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することをめざす。」をふまえ、十分な内容を備えたものでした。</p> <p>算数では、基礎的・基本的な概念や性質の理解を図り、見通しをもち統合的・発展的に考察する力を身に付けられるよう、文章の記述や分量、図や表などの資料の扱い、具体物の操作や日常生活への活用などが配慮されていることが重要であると感じます。また、プログラミングの題材の取上げや、デジタルコンテンツもポイントと考えました。以上でございます。</p>
植田教育長	<p>それでは、それぞれの教科書を読まれてのご意見をお聞かせ下さい。</p>

山本教育長職務代理者

それぞれ各社を読ませてもらったのですが、私が一番注目したのは導入部分で、東京書籍の導入については、1年生の最初に、比べたことがあるかな、多いのはどちらかなという指摘があって、2年生3年生では学びの扉という、6ページあたり、5、6年生では、そこにプラス、私と算数という著名人からの算数にふれたときのメッセージがあって、とても導入については良かったと思います。

それから各単元の導入に、日常生活に関することを、1ページふれております。これについては東京書籍は、どの教科書でもめざしていることなのですが、算数では友達と遊ぼうということで、協働的な学びを意図して考える工夫をされていると思います。それは特に5年生6年生で、顕著だったと思います。

それから今日の問題というのが初めあり、めあて、考える手がかり、まとめ、という形の系統性をもって書かれています。この今日の問題が、実は黒板に書いてあるイメージで、非常に子どもたちにはわかりやすいのではないかと思います。

プログラミング教育についても触れられていますし、二次元コードについては、導入にオープニングムービーがあって、この部分も意識的で良いと思いました。答申の中でも、まとめて答え合わせができて非常に有効だという意見がありました。

それからマイノートというのがあり、そのなかで特に注目したのは、つまずき。2年生の上に、時刻と時間というようなことを書いて、1例ですけれどもそういうつまずきの例を出しているというところは、よく工夫されていると思いました。

あと大日本図書は、2年生の最初に10ページほどにわたって学び方などが書かれています。ノートの書き方、算数の大事な考え方、それからひらめきのアイテム、こういうのを始めにまとめて、10ページほどある部分については、非常に子どもたちにとってはよくわかるのではないかと思います。

それから問題を掴んで、めあてのことですが、自分で考えて学んでまとめようという、そういう系統性がどの單元にもあって、さらに使ってみようということで振り返るという形になり、さらにそれが章末に行って確かめ問題という問題にまで続いていまして、その確かめ問題で、個別最適な学びであるとか協働的な学びを意識されていると感じました。ただ残念ながらすべての單元がそうではなくて、ちょっと系統的になっていない單元もあったと思います。

あと、算数教室というコラムがあって、社会との関わりとか他教科との関わりなど、カリキュラムマネジメントを意図したそういうページもありましたし、巻末に復習が5ページ、それからプラスワンということで練習問題が10ページありました。この量については、ちょっと多いのではないかとというような点もありますが、子どもたちが自分で自主的に勉強する分にとって

<p>(山本教育長職務代理者)</p>	<p>は必要な量ではないかなと思いました。以上です。</p>
<p>佃委員</p>	<p>どの社も数学的な見方や考え方を示す工夫をされていると思います。東京書籍には眼鏡マークがあって、大日本図書にはひらめきアイテムがあり、学校図書には算数を見つけない考え方モンスター、教育出版にはつながる見方。これは、教えあいをしているような会話で考え進めるように工夫されているのが良いと思いました。</p> <p>啓林館は、大切な見方・考え方ということをお花マークの囲いの中にマーカを引いて示していて、これは意見書でも、見方・考え方マーカが発展的な考えをまとめていて補助に良いと思いました。日本文教は、常に見方、考え方が問題の中にあって、気づきを促していると感じました。</p> <p>組織や配列についても、どの社も生活の中にある算数とか、これまで学習してきたことなどについて話し合いながらめあてを作って、課題解決的に問題に取り組んでいる構成になっていました。</p> <p>特に教育出版は、振り返ろう、確かめよう、というまとめのなかでまた振り返っていこうという流れが自然だなと思いましたが、啓林館の確かめよう、振り返ろうを、そしてやってみようとして、さらに学びのまとめのなかで確認している点が良いと思いましたが、日本文教はわかっているかな、確かめよう、学習を確かに、という流れで取り組めるような構成になっていたかと思えます。以上です。</p>
<p>河田委員</p>	<p>私からは、まず学校図書ですが、新しい学習に入るときに出てくるはてなを発見は、何を学ぶのかが漫画で描かれていて、わかりやすいと思いました。考え方モンスターというキャラクターが算数の見方や考え方を表していて、子どもたちが楽しく学べる工夫があって良いと思います。また社会との関わりを算数を使って深める内容もあり、SDGsとの関連づけがなされているのも良いと思います。各学年の最後に自己評価シートがあることで自分の学びを振り返ることができ、6年生では、中学校へのかけ橋という別冊の教科書で復習し、中学校の数学につなげていくようになっている点は良いと思いました。</p> <p>啓林館は、1年生のスタートブックはサイズもやや大きく、入学したての子どもたちにも書き込みしやすい配慮がされているように思いました。各学年の終わりに、復習のページがあり1年間で学んだことを復習することで、次の学年にスムーズに接続できると思います。</p> <p>6年生の未来への扉では、様々な職業の方のインタビューが掲載されていて、実際に算数が社会でどのように役立っているかを知ることができて、子どもたちの学びの意欲向上に繋がるのではないかと思いました。また、プログラミングや社会の課題とSDGsについて、算数と関連させて学ぶことが</p>

山本教育長職務代理者

できるようになっている点も良いと思います。以上です。

学校図書について、今ありましたように単元の導入に1ページの漫画が入っているというところで、子どもたちにはとっつきやすいかなと思いますし、算数の学び方というのが4ページにわたって書かれており、そのなかで、ノート名人というところで、見つけたい見方・考え方が結構なページ数、9ページにわたって説明をしてあるところは、非常に導入としては良かったと思います。

教育出版は、みんなで算数を始めようというページがあって、これも使いたい見方・考え方というのは2ページにわたっていますが、そのタブレットに左利きの写真があるというので、その点は良かったと思います。いつも大切にしたい算数の考え方という非常に大事な姿勢について、各学年で、同じようなパターンで今までの学びの確認をしているというのが、教育出版の意図を感じました。

それから単元の導入では、どんな学習が始まるかなと、3ページでは子どもたちの関心を喚起するような工夫が見られていると思います。あと巻末で、自分で取り組むページということでステップアップ算数とか広がる算数、それから学びの手引き。これはですね、学年の追加方式で、学年によって30から40ページぐらいあり、これが主体的な学びに役立つのではないかと思います。

また日常生活の関連でいうと、算数ワールドというのが各学年にあり、算数を使って考えようということで結構ページ数を取ってありますので、そういうところが日常生活の関連ということで子どもたちに算数の重要性を喚起していると思いました。

啓林館については先ほどから言われていますように、数学的な見方・考え方を意識して編集をされている。もちろん当然これはどの出版会社もそうなのですが、意識されているなと思います。それはキャラクターの見出しにマーカーがついているという学校意見書の指摘もありましたように、めばえ・めあてというところで、自分で考えさせていくような、そういう部分が顕著だと思います。

それから二次元コードについては、非常に適切であって、各章の初めに解説動画があって、表紙にコンテンツが書かれていて興味を引くようにしています。

1年生から6年生まではワークアッププログラミング、3年生から6年生でわくわくSDGsとか、2年生では読み取る算数ということで、日記から算数を読み取るとか、そのような工夫が見られます。また、主体的な学びを非常に意識していて、6年生では未来への扉とか、6年生のまとめとか、中学校へつなぐための数学への扉とか、全部で30ページぐらいとって、主体的な学びをするような仕掛けが見られるのかなと思います。

<p>(山本教育長職務代理者)</p>	<p>日本文教出版については、協働的な学びを意識されていると思いました。自分の考えを発表して話し合おうという視点で、自分で皆でというページを作成されています。各学年に4ヶ所ほど、そういうことがあって、子どもたち自身が自分で考えやすくなるかと思います。</p> <p>それからめあて、見通し、自分の考え、友だちの考え、まとめ、振り返りというように、非常にシンプルなパターンを作っていて、自分の考え・友だちの考えというところを子どもたちに考えさせるという教科書の組立ては非常に良いと思います。</p> <p>それからプログラミングについては、付録ですけれども、1年生から6年生までレッツプログラミングと書かれていますし、6年生のまとめのページも、他社も多いのですが、日本文教出版も30ページにわたって6年のまとめと中学校の数学へのつなぎをされていると思います。以上です。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、「なわての子どもたちに」という観点でもご意見いただければと思います。</p>
<p>佃委員</p>	<p>やはり算数ですので、補充的な学習や発展的な学習という観点もとても、それができるところがとても大事な観点だと思いますけれども、各社ともそういった配慮がなされていますけれども、特に啓林館は、学びのまとめ、学年のまとめ、復習、学びのサポートなど、いろいろと他にも広げられるような、そしてまとめの問題のページには二次元コードがあって、答えはクリックしたらやっと思えるようにという工夫がとても良いなと思いました。</p> <p>日本文教は、わかっているかな、確かめよう、なるほど算数などととも、デジタルコンテンツが豊富であると感じました。</p> <p>教育出版は振り返ろう、確かめよう、算数ワールド、復習ということで、学んだことを使おうという具体的な場面が示されて、他教科とリンクした内容になっていて、発展的な学習にも取り組みやすくなっていると感じました。以上です。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>なわての子どもたちの数学的な思考を育成するためにはどの教科書かという観点で考えますと、やはり一番基本的なところがきっちりと押さえられるということは必要かと思っています。</p> <p>どの教科書も、初めの1年生2年生の導入についてはきっちりとされているのですが、小学校の1年生2年生の子どもたちが教科書に触れるわけですから、実際には他の教科のことも考え、子どもたちがパッと印象を持って数学に入っていけるという視点が良いと思います。</p> <p>そういう意味で言いますと、東京書籍の導入の部分については非常に良か</p>

(山本教育長職務代理者)

ったと思いますし、先ほどあまり詳しく言えなかったのですが、啓林館の1年生のスタートブックにいくつといくつという丁寧でわかりやすいページが11ページにわたってあります。

それから他社はですね、時計のところについては、9時0分であるとか、9時30分と書いて「くじはん」と読ませている教科書もあるのですが、啓林館については9時2分というところを読ませています。

あと0を、読み方を書いてない教科書があるのですが、書いている教科書が多いのですが、0という一番基本的な算数の学びへの配慮というのが、見られると思います。

東京書籍の導入も良かったのですが、1点気になったのは、2年生のかけ算の導入のところで、電車に乗っている人数と、1両に乗っている電車の人数を、何両あるかかけさせるのですが、残念ながら最後尾がトンネルの中に隠れているというそういう絵になっています。子どもたちは想像すればわかるのですが、2年生ですので、直感的に働けるような形の導入をしなければならないと思います。

学校図書につきましても、1年生の導入で20ページほどイラストがずっと続きます。この部分についての是非があると思うのですが、指示がありませんので、子どもたちが何を感じるのかということ子どもたちの感じることを先生がこの20ページ見て、どういうことを感じたのかなという設問をして、子どもたちとの意見交流をするという非常に良い20ページの導入かなと思いますけれども、この部分の是非については両方の意見があるなと思います。

あと、各社ともつまずき振り返りについては、日本文教出版含めてされているのですが、啓林館は、つまずき振り返りの対応が非常に丁寧でよくわかるという部分であったなと思います。

それからもう1つ、数学の中で大事な部門として、倍数から割合にいくという、この単元は3年生から6年生までの部分ですけれども、どの出版社も非常に工夫をされてましたけれども、啓林館についてはよくわかる系統性でこの部分がされたなと思います。

ただ啓林館が1社違うところが、5年生の面積の部分のところで、三角形の面積から平行四辺形の面積を出していくというところが、他社とは全く異なるというか、逆になっています。

この部分については指導の問題もあるかと思いますが、是非の問題があるかと思っていますが、数学的には、指導するときには平行四辺形から三角形にいても三角形から平行四辺形にいても、特に指導だけのことになりますので問題がないのですが、そういう観点に、特別の次につなげる工夫を啓林館がされていると感じました。

二次元コードについては、よく巻末で扱っている教科書が多いのですが、啓林館は巻末に扱わずに、1年生から6年生のプログラミングを本文の中で

<p>(山本教育長職務代理者)</p>	<p>2ページで取り組んでいるところも、日常的に子どもたちが触れることができているのではないかと考えています。以上です。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは答申内容を勘案し、皆様方のご意見をまとめますと、まずめあて、まとめがわかりやすく、数学的なアプローチ、考え方の醸成、これらにプラスになる。次に、薄茶色のマーカーで示されている「見方、考え方」が発展的学習に活用できる。また二次元コードは、様々な工夫がありますが、特に、まとめ問題の部分で当初非表示、クリックすると、答えが表示されるという効果的な工夫も施されているということ。それにスタートブックの内容構成が丁寧であるということ。またビジュアルプログラミングの具体例が各学年で掲載されている。最後に倍数割合等の扱い、その他面積求積のこの辺りが発展的である。</p> <p>これらの観点を踏まえ、啓林館がよりふさわしいと思われませんが、啓林館を採択することと決定してよろしいでしょうか。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>(「異議なし」の声)</p> <p>異議なしと認め、算数の教科書は、啓林館の教科書を採択することとします。</p> <p>続いて、理科についてお願いします。</p>
<p>木村選定委員長</p>	<p>理科は6社から出版されておりますが、うち1社からは見本本の提供がありませんでしたので、5社について調査、研究しました。</p> <p>理科の目標は「自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成することをめざす」とあります。</p> <p>その目標と照らし合わせ、観察や実験を通して主体的に問題解決する見通しがもてること、また写真や資料の効果、自然環境や防災の扱い、安全の確保や事故防止などが検討の観点となりました。以上でございます。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>それでは、それぞれの教科書を読まれてのご意見をお聞かせ下さい。</p>
<p>河田委員</p>	<p>大日本図書ですが、文字の大きさやページのレイアウトは見やすく、二次元コードの配置場所が、ページ番号の横に固定されているので見つけやすかったです。</p> <p>理科の玉手箱、サイエンスワールドといった資料には、SDGsや自然、伝統、災害、科学技術、理科と仕事、英語のマークがついていて、理科と身</p>

<p>(河田委員)</p>	<p>の回りの事柄を関連づけて考え、学びを広げる工夫がされていました。マークは絵と文字が書かれているので、何を表しているのか、すぐにわかる点も良いと思います。</p> <p>また、巻末に図書館の本で調べようのコーナーもあり、図書館の活用を促している点が良いと思います。</p> <p>デジタルで簡単に調べ物ができる時代ですが、時間をかけて本で調べるといことも、子どもたちの探求心を育てることに繋がるのではないかと思いました。啓林館は、文字の大きさやページのレイアウトはとても見やすかったです。写真が多く掲載されていて、実験の様子や使う道具が確認しやすいと思いました。</p> <p>普段の生活や話題から理科を考える暮らしとリンクは、子どもたちが理科を身近に感じることができ、興味を持って学習に取り組めるのではないかと思います。</p> <p>また、理科の広場では、その内容と関連する教科が書かれている点が良いと思いました。SDGsや防災、減災、自然からの恵みのコーナーも設けられていて、社会の課題を理科を通して学ぶことができる点も良いと思います。</p> <p>また、教科書がやや小さいので、タブレットやノートと一緒に机に置いても、スペースに少しゆとりができるのではないかと思います。以上です。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>各社とも理科の目標に沿って問題を考えて、調べて、調べる中身は観察実験が中心なのですが、それでまとめて考察をして、日常生活にまで広がっていくという問題解決型学習を意識して編集をされていました。</p> <p>そういう観点で見ていきますと東京書籍は、問題まとめというのを、正対した表現で統一をしているということで、これは非常にわかりやすいという、答申の中にもそういう意見があります。</p> <p>レッツトライというところの導入で、写真を見比べて考えるという視点が非常に良かったと思いました。またこの問題からまとめのところに行くまでが、箇条書きで書かれていて非常にわかりやすいなという印象を持ちました。</p> <p>調べよう、確かめようというところで、個別最適な学びを意識して、編集されているなというのはよくわかりましたし、計画しようのページのデジ活という二次元コードについては、イラストでの話し合いとか例示とかあって、その部分自身が、協働的な学びにすぐに繋がっていくところを意識されている。これが非常によく考えられているというので、子どもたちにも、興味をもっていうことができるかなと思いました。</p> <p>あと同じく、理科ノートは習熟度別学習を意識しているという学校意見書の中にもそういう意見がありましたし、豊富な二次元コードで、非常にいろんな部分について、すべて皆二次元コードに入っていけばわかるという、そういう仕組みになっています。その結果、他社に比べてページ数が数十ページ、少ない教科書になったかなと思いました。</p>

(山本教育長職務代理者)

また私が注目したのは、理科の世界探検というページが各学年充実をしていて、それが日常生活、社会との繋がりを、キャリア教育であるとかチーム教育であるとかSDGsの問題であるとか、そういうところにうまく繋がっていているなという、そういう印象を受けました。

大日本図書ですけれども、先ほどもありましたように、SDGsに非常に力点を入れて問題解決型学習をめざしておられるというところで、4年生の生物と地球環境のメダカのお話ですけれども、小さな生物を食べているとかいう、そういうところなんかの発想は、非常に子どもたちに大きな関心を呼ぶのではないかと思います。

学校図書については、單元ごとにできるようにしたいという、そういう設問からできるようにしたという学びを確認できる形にしているのは非常によく工夫された点だなと思っています。

また、科学的な視点、それから科学の芽を育てるという点は学校図書に限らず、どの出版会社もそういうことを意識されていると思うのですが、そういう意図のもとに、表紙の裏に科学者の文章であるとかあるいは実際の実験をした表の整理ができるとか、特に実験結果の表の整理なんかは科学的な根拠があって、そういう意識を育てるのはとても良かったと思います。

それから社会との繋がりの中で特に学校図書で注目したのは、地球温暖化の問題もそうですけれども、プログラミング教育の中でLEDを取り上げられたのは、非常に工夫されているという印象を持ちました。

教育出版につきましては、前の学年で学んだことをわかったことというそういう説明を2ページにわたってしていますので、系統性がよくわかるかなと思います。ただ次のところで国語で学んだことを生かそうというページが3年生、4年生、5年生、6年生にあるのですが、工夫はわかるのですが、国語に特化して、言語力というように持っていますので、この部分はちょっと違和感を感じたところです。

それからノートのとおり方とか夏の星座につきましては、天の川に特化しているところが非常に良かったと思います。

啓林館につきましては、私が一番注目したのは、協働的な学びを中心にした、そういう学びのサイクルを、理科の楽しみ方というところで、丁寧に述べているところは良かったと思います。以上です。

佃委員

理科の目標である、観察実験を行い、問題解決の力を養うことについては、めざす問題解決の力を示すというところでは、東京書籍は、伸ばそう理科の力のマークで、大日本図書は巻頭の読み物マンガとか特にここで、そして学校図書は理科モンスターで、教育出版社は学習のすすめ方で、啓林館は見方考え方マーカで、それぞれわかりやすく示されていたのが印象的でした。

特に啓林館は3、4年生で問題を掴もう、5、6年生で初めに考えよう。もう一度考えようということで、問題を発見することも大切にされているな

<p>(佃委員)</p>	<p>と感じました。</p> <p>単元構成におきましても各社とも問題解決学習が行われるよう工夫されており、学習した内容を振り返ることができる工夫があり、特に教育出版では問題を見つける、考えをつくる、考えを確かめる、わかったことを表す、そして振り返ろう、確かめよう、と丁寧なステップで刻まれています。</p> <p>啓林館では、見つける、調べる、まとめるとありまして、さらにまとめノートを確認よう活用しようということで、そこから暮らしとリンクへ発展していき、中学校の学習にも繋がる工夫が印象的でした。</p> <p>学校意見書の方にも、啓林館について、変化の様子を示す写真の配列が見やすいと、それからどの単元も同じ配列になっているという評価もありましたし、まとめよう確かめよう活用しようという点についても振り返りができて深い学びになるということが書かれていました。</p> <p>教育出版は、裏表紙に安全の手引きを示されておられて、危険なことへの注意が裏で一度にまとめてあるのでいつでも意識できるという点が学校の意見書でも評価されていました。以上です。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、「なわての子どもたちに」という点でもお願いしたいと思います。</p>
<p>佃委員</p>	<p>理科ではやはり個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実というものがとても大事なと思うのですが、各社とも、デジタルコンテンツや資料等で一人ひとりに応じた学びを進められるように工夫されていること。それから対話的な学びの参考となる発言とかイラストが示されていて、個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実するよう工夫されていると感じました。</p> <p>ものづくりの活動のなかでは、先ほども仰っていましたが、学校図書では、プログラミングのなかで LED を点滅させるようなプログラム、それから1回、3回のブロックの並べ方などは、とてもわかりやすいと思いましたし、教育出版の3年生の作って遊ぼうとか、全学年のチャレンジとか、6年生になると夜になると光るライトをつくる活動など、子どもたちにとって興味深い活動ではないかなと、また、協働的な学びになると思いました。</p> <p>啓林館では、3年生のおもちゃランド、そして4、5、6年のものづくり広場、6年生ではさおばかりつくりというものが使われていて、これも面白そうだなと思いました。</p> <p>プログラミングにつきましては、先ほど職務代理も仰っていましたが、啓林館は全学年でやってみようプログラミングという扱いがされています。それから東京書籍もですが、こういったあたり、興味深く進める子どもたちもいるのではないかと思います。以上です。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>四條畷の子どもたちに理科の力をつけるという意味でいうと、自然環境に</p>

(山本教育長職務代理者)

豊かなところですので、ぜひ子どもたちにもそういう自然環境あるいはその自然観察を通じて、理科の力を養って欲しいなと考えています。

そういう意味でいうと、自然の変化というところについては4年生で各社とも結構精力的に取り組んでいます。

東京書籍は、生物との関連で、植物の様子であるとかそういう写真を取り上げて、先ほど言いましたように、理科の世界探検部というコーナーについては非常に充実をしていますので、そういうところが良かったと思います。

大日本図書につきましては、同じく4ページにわたって調べようというところで、あと2ページで大きな季節の写真を載せています。

学校図書は、2ページ比較をして、あと6ページを使って考えるということをしています。季節に限らず、学校図書については、星座の扱いがよくできているなと思いました。特に月の部分については、満ち欠けを含めて11ページにわたっていますので、自然観察の部分については優れているなと思いました。

教育出版は、季節に関しては、1ページで川の写真を載せているのですが、あと4ページを使って自然観察としているというところで、先ほどふれましたように、天の川に特化して夏の星座を取り上げているというところと含めて、人と環境というところについては力点を置いているのかと思います。

啓林館については、池の写真と、あと6ページの、いろんなことを考えさせ、暮らしとリンクというページも設定をしています。何より啓林館で取り上げているところで注目したのは、野生のメダカにふれるということで、そういう観点から取り組んでいる視点が良かったと思います。

そういう意味であと、啓林館につきましては、日常生活の繋がりということで、多くの出版会社が巻末にふれているということが多いのですが、本文の中で、各学年ごとに数ヶ所、日常生活との繋がりというところの視点を含めて、チーム教育とSDGsを意識した編集をされているのかなと思いました。4年生にコオロギを食べるという部分があって、これは他社にはないのですが、これを子どもたちに示すのが良いのか悪いのかという是非の問題がありますけれども、客観的な事実として、そういうのが日常生活の繋がりの中なかでふれられているという、そういう印象を受けました。以上です。

植田教育長

ありがとうございます。

それでは答申内容を勘案し、皆様方のご意見をまとめますと、まず観察や実験の実物写真を多用し、科学的アプローチを実感確認しやすい。

「暮らしとリンク」による実生活での科学の応用へブリッジ、協働的な学びのプロセス、ICTの効果的活用もふれられている、「わくわくCBTチャレンジ」等の個別最適に発展的な学習ができる仕組みが備えられている、それからプログラミングの扱い、また、コンパクトサイズでタブレットPCとの同時使用にプラスである。そして、SDGsの扱い。

(植田教育長)	<p>これらの観点から、啓林館がよりふさわしいと思われませんが、啓林館を採択することと決定してよろしいですか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p>
植田教育長	<p>異議なしと認め、理科の教科書は啓林館の教科書を採択することとします。では続いて、生活についてお願いいたします。</p>
木村選定委員長	<p>生活は7社から出版されておりますが、うち1社からは見本本の提供がありませんでしたので、6社について調査、研究しました。</p> <p>どの教科書も、生活の目標「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することをめざす。」の目標に則り、様々な活動や体験を通じた学習の可能性を感じる教科書となっていました。</p> <p>自分自身や自分の生活について考え、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学べるような、多様な学習活動が実現できる教科書を選ぶことが大切であると考えます。また、写真や資料等のページの構成やスタートカリキュラムの扱いについても調査のポイントとしました。以上でございます。</p>
植田教育長	<p>それでは、それぞれの教科書を読まれてのご意見をお聞かせ下さい。</p>
佃委員	<p>生活科もすべて各社とも、自分自身や、自分の生活について考えて表現することについて、適切な内容が取り上げられているなど感じました。</p> <p>学習の過程を児童が考えて表現する内容が、東京書籍では活動便利帳、大日本図書ではがくしゅうのどうぐばこ、学校図書では学び図鑑、教育出版では学びのぼけっと、光村図書ではヒント別冊の広がる生活辞典、そして啓林館では学習図鑑ということで、どれも充実した内容が取り扱われていました。</p> <p>それから、単元構成の特にスタートカリキュラムでは、各教科等を意識した活動が、東京書籍では、どきどきわくわく1年生でイラストや写真で示されており、大日本図書では楽しいよ1年生、学校図書でははじまるよ小学校、光村図書では1年生がはじまるよ、教育出版でははじめの一步、啓林館ではスタートブック学校大好き1年生ということで示されていました。</p> <p>啓林館は最もページ数も多く内容が充実しているなど感じましたし、東京書籍、教育出版、啓林館は幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿を記載されているのが印象的でした。以上です。</p>
河田委員	<p>生活は他の教科へ繋がっていく大事な教科だと思いますが、どの教科書も</p>

(河田委員)

低学年の子どもたちが学習に入りやすい工夫がされていたと思います。

そのなかで、教育出版は、写真やイラストが大きく内容を理解しやすいと思いました。はっけんろうどは子どもたちになじみのあるキャラクターが登場し、子どもたちの考え方に沿って学習をとらえる工夫がされていて、わかりやすく楽しく学べると思います。SDGsについて、低学年の子どもたちにもわかりやすい内容で書かれている点も良かったです。

光村図書出版は、ヨシタケシンスケさんのイラストや言葉は、子どもたちにもなじみやすく、自然と楽しく学習に入っていけるのではないかと思います。また低学年のうちには保護者も子どもと一緒に教科書を見る機会も多いので、保護者が見ても楽しい教科書だと感じました。

啓林館は、ページのレイアウトは見やすかったです。次のページへ続くめぐり言葉は、子どもたちの興味や注意を引く仕掛けになっていて良いと思いました。びっくり図鑑ライブでは、物の本当の大きさが写真で載っているのも、子どもたちの好奇心や探究心をくすぐるのではないかと思います。また、教科書がやや小さく低学年の子どもたちにも扱いやすいと感じました。以上です。

山本教育長職務代理者

生活につきましては、私は安全の意識を子どもたちにつけるのが大切な観点だと思っています。そういう意味で各社を見させていただきますと、すべて安全については、相当なページ数をさいて、導入の時点から、書いているところがものとても多かったかなと思います。光村出版1社については、巻末に2ページにわたって、安全の特集をしていました。

東京書籍は、学校生活スタートというところを非常に工夫をされて、それ自身を、安全にも繋がっていていると思いました。巻末には、活動便利帳というのが、上で7ページ、下で9ページという多くのページ数をとって、子どもたちの生活科に関する資質能力を身につける観点がよく工夫されていると思いました。

東京書籍の上巻にある、先ほど河田委員が述べられたと思うのですが、ほんとうのおおきさいきものずかんについては、好奇心を喚起するという、そういう視点で、答申の方にも述べられています。

それからもう1つ、注目したのは、まちの施設、まち探検。これは下巻の方にあるのですが、これも充実をしています。それをさらにつなげる広がるという視点で展開しているのは、良かったと思いました。

大日本図書につきましては、注目するところはやはりがくしゅうのどうぐばこという、上で8項目、下で6項目、先ほど言いましたように安全とか、自分を守るという視点で、それを確立させるために、がくしゅうのどうぐばこということで良い仕掛けだなと思いました。さらに発展していくところで、もっと知りたいという、意欲をあおるというのは、これは学校意見書の方にも同様の意見がありました。

(山本教育長職務代
理者)

それから上で、みんなとの繋がり、下で他者のよさ、感謝ということで、仲間づくりを意識して編集されていると思いました。あとは語彙力を高めるために、きらきらことばであるとかせいかつことばでまとめているのが非常に良いというのが、答申の中の意見にもありましたように、私もそのように感じました。

学校図書に関しましては、スタートカリキュラムが、イラストがあつてシンプルな表現で非常に良かったと思います。これを読んで子どもたちは学校が好きになるという、そういう発想で編集されていると思いました。

それから学校意見書の方にもありましたけれども、キャラクターでつぶやきカードで、自然の見方や考え方を生かしていける工夫をされているのが良いという意見がありまして、私もそのとおりでと思っています。あと学び方図鑑、上下があるのですが、それで学びの意欲が高まっていくと思います。

野菜日記という項目があつて、植物を使ったアプリの評価が詳しく書かれていましたので、そういう身の回りのものを使っていくような工夫というのも、この教科書の中ではできるかなというふうには思います。

教育出版につきましては、もしもというページがありますので、もしもというところで考えたり挑戦したり振り返るというところで、非常に子どもたちは、関心をもつのではないかと思います。何かしようという表現で考えて行動させるという視点が、非常に良かったと感じました。

光村図書出版は、写真・イラストが非常に大きくて見やすいという部分は良かったと思うのですが、広がる生活辞典という別冊があります。この別冊について、どのように活用していくのかというのが課題かとは思っていますが、この別冊のなかに、先ほど言いました安全の問題にもふれられており、うまく活用できれば効果的だなと思います。

あとは自然にふれる町と探検を意識して、外に出ていって活動、行動することをめざし、グループ活動が例に示されているというのが、非常に良かった。

啓林館につきましては、健康とか安全をスタートで取り上げているというのがとても良かった点です。上の方には、自然を重視して、花や植物や生き物ですけども、あとプラスアルファは、季節の行事を取り上げているというのがとても良かったと思いますし、学びウェブに多くの動画があつて、これを利用することによって主体的な活動ができるというのが、使いやすいというか、良いと思っています。また、カードの書き方というのが非常に多くて、これも役に立つかなと感じました。以上です。

植田教育長

それでは次に、「なわての子どもたちに」という観点でもお願いいたします。

佃委員

生活科の教科書を調査させていただいて本当にびっくりしたのは、子どもたちが自然にいろいろなことを、季節も含めて学べる、細部にわたる工夫が

<p>(佃委員)</p>	<p>されていることでしたが、そういった素晴らしい教科書をやはり家庭で、保護者の皆様と一緒に使って欲しいなと思いました。</p> <p>特に小学校低学年の場合は、家でもどのように学習するかという観点は大事だと思うのですが、光村図書の教科書は、今までの教科書の概念を変えるというか、賛否両論あるのかもしれないけれど、ヨシタケシンスケさんという大変有名な絵本作家さんを活用されて、まるで絵本を楽しんでいるかのように、教科書を読み進めることができる。言葉が少なく、必要なことはいろいろな思いを膨らませながら、または指導する方もいろいろ工夫して指導ができるのではないかということでは、ある意味画期的な教科書だなと思いました。ただ先ほども職務代理が仰ったように、広がる生活事典とか、そういった使い方については、さまざまに工夫が必要だなと思います。</p> <p>最後に生活がいろんな気持ちでできている、毎日生活しながら君らしくなっていくってこのまとめの言葉が、秀逸だなと思いました。</p> <p>啓林館は、写真も含めて、春の図鑑、夏の図鑑、秋の図鑑と、それぞれ季節の植物からいろいろな行事であったり、丁寧に取り上げられていて、四條畷の子どもたちも、自分たちの生活と、そしてこの教科書を見比べながらいろいろな体験ができた、または保護者の皆さんと一緒に考えたりできる教科書ではないかと思いましたし、巻末の学習図鑑については上下に分かれていますけれども、手紙や電話を使おうとか、乗り物になろうとか、いろんな活動のヒントに繋がる部分もあって、大変良いなと思いました。以上です。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>東京書籍と啓林館につきましては、幼小連携を意識されていて、東京書籍については幼児期にスタートしているという、そういう観点が、とても意識的に作られているなと思いました。</p> <p>大日本図書については、安全や繋がりということで、あるいは人への感謝の気持ちを重視していると思いますし、学校図書については、個人と他者との関係を重視して、特に安全についてはスタート時点で重視していますので、この点も良かったと思っています。</p> <p>教育出版については、考える視点、子どもの達成感とか満足感、そういうものが学習意欲に繋がっていくのだという視点が良かったと思います。</p> <p>光村図書については、自然とかまちの探検、そういう部分が非常に重視されていると感じました。</p> <p>啓林館については先ほども言いましたけれども、自然の重視とか、季節の行事等の取組み、そのあたりが、自然豊かな本市の子どもたちには受けるかなと思っています。また保護者に関する説明というか、メッセージについては、非常に適切で、良かったと思っています。以上です。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは答申内容を勘案し、皆様方のご意見をまとめますと、まず収録さ</p>

(植田教育長)	<p>れている図鑑の効用、そして幼小連携、デジタルコンテンツの充実、自然暮らし等へのブリッジ、さらに日常生活、その中でも自立した生活のための資質能力の養成にプラスになっている。これらの観点から、啓林館がよりふさわしいと思います。啓林館を採択することと決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p>
植田教育長	<p>異議なしと認め、生活の教科書は、啓林館の教科書を採択することとします。</p> <p>それでは審議の途中ではございますが、ここで午後1時まで休憩とさせていただきます。</p> <p>(休憩)</p>
植田教育長	<p>それでは、休憩を閉じまして、議案第20号 令和6年度使用四條畷市立学校教科用図書の採択について、議事を再開いたします。</p> <p>続いて、音楽でございます。木村選定委員長、お願いします。</p>
木村選定委員長	<p>音楽は2社から教科書が出版されております。</p> <p>いずれの教科書も、音楽の目標「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することをめざす。」をふまえ、よく工夫されていました。</p> <p>写真や組織・配列の効果等を中心に、共通事項を含めた様々な国の音楽からの選曲、題材ごとのねらいの示し方、情景を想像しやすい写真の用い方等に調査のポイントを置きました。以上でございます。</p>
植田教育長	<p>それでは、それぞれの教科書を読まれてのご意見をお聞かせ下さい。</p>
佃委員	<p>音楽は教育芸術社、教育出版社の2社ですけれども、2社ともに表現・鑑賞の領域について発達段階を考慮したものになっていたと思います。また、音楽的な見方、考え方を働かせ、主体的、対話的で深い学びが実現できるような工夫がされていると感じました。特に歌唱では、共通教材で、例えば4年生でさくらさくらという曲が両社とも取り扱われていますけれども、教育芸術社の方では、桜の美しい景色のなかにめあてがあって、見つける、考える、そして歌うという活動に、見方・考え方を働かせる工夫が示されていて、いろいろな活用の仕方できると考えました。</p> <p>また、教育出版の方は、同じくさくらさくらが見開き3ページの美しい桜並木の写真が扱われていましたけれども、歌詞を見ながら歌うとき、3ページになった分、若干、持ちにくいのではないかなと感じました。</p>

<p>(佃委員)</p> <p>山本教育長職務代理者</p>	<p>6年生のふるさとでは、教育芸術社の方は三部合唱に編曲をされていて、教育出版の方は二部合唱の編曲でした。</p> <p>教育芸術社では、チャレンジの方で、人、音楽の関わりを味わおうということで、さらに次のページに向けて見つける考えると深めて歌う。さらに、家族や地域の人にインタビュー活動を入れてみるなど、活動の深まりが求められます。</p> <p>また、共通事項という、基本的事項もあるのですが、これは小学校段階では、丁寧に扱っていただきたい部分かと思いますが、教育芸術社は180ヶ所、教育出版社は109ヶ所と、教育芸術社の方が多く扱われていて、それは良いなと思いました。以上です。</p> <p>私も表現鑑賞が両者とも非常に整っていて甲乙つけがたい印象と思っています。</p> <p>教育出版については、学習マップという部分で各題材で学習する内容項目等が、他教科との関連等含めて書かれていると、答申の方では使いやすいという意見がありました。音楽のことという、構成要素を意識させるという視点で、右ページの上の方に載っておりますし、マイリンクという形で音声とか演奏の工夫とかもできます。あと日本の音楽、世界の音楽というのは、教育芸術社も一緒なのですが、私がちょっと関心を持ったのは、6年生でジャズとクラシックの出会いという、そういうページがあることがちょっと新しいなとは思いました。</p> <p>学校意見書の方には教育出版は、2年生で鍵盤ハーモニカで、指の使い方が写真であるのが良いとか、あるいは3年生のふじ山も3ページの写真で、よくわかるように組み立てられているとか、そういう意見がありました。</p> <p>教育芸術社につきましては、各単元の最初にねらいがあって最後にまとめがあるということで、答申では何を学び何ができるようになったのかが確認できるというので、非常に使いやすいという声があります。</p> <p>また学校意見書の方では、写真とかイラストに興味関心がある、あるいはごんぎつねとか、茶つみとか、そういうところに、ごんぎつねは朗読であったり、それから茶つみについては、手遊びのイラストであったりということで、4年生、3年生を対象にしているのですが、非常に興味関心をもてるのではないかという意見がありました。</p> <p>両社とも馴染みのある曲があるのですが、教育芸術社については、裏表紙に育てよう伝えよう地域の文化芸能という部分があって、6年生には、大阪のことを触れられているという、そういう部分があったかなと思います。</p> <p>あと芸術家あるいは音楽家の部につきましては、それぞれ巻頭に、教育出版は4年生から、中村由紀子さん野村萬斎さん辻井伸行さんという芸術家を取り上げて書いていますし、教育芸術社の方はもう少し詳しくリコーダーの方であるとか、クラシックコンサートの仕事を実際にされている方とか、そ</p>
--------------------------------	---

(山本教育長職務代理者)	れからソプラノの方とか、指揮者の山田和樹さんとか、そういう方々を取り上げているというのが印象的でした。以上です。
河田委員	<p>まず、教育出版は、ドレミ体操や手拍子リレーなど、音楽を楽しんで学ぶための工夫がたくさんありました。リズムや音階をイラストで表していて、子どもたちにもわかりやすいと思います。また歌のテーマに沿った写真が大きく綺麗に掲載されていて、イメージがつかみやすいと思いました。日本の音楽や世界の音楽などの紹介があって、様々な文化を知ることができる点や、手話で歌うページがある点も良いと思いました。</p> <p>教育芸術社は、最初に考える、見つける、歌う、演奏する、作るというように、活動内容が示され、最後にできるようになったことを確認できる流れになっていて、主体的に学ぶことができ、深い学びに繋がる構成になっていると思います。歌うときに気をつけることが写真やイラストで説明されていてわかりやすく、歌のテーマに沿った写真が大きく掲載されていて、イメージがつかみやすいと思いました。楽器図鑑は、写真が大きく楽器の詳細の部分がよく見えて、丁寧な説明が書かれていてわかりやすかったです。以上です。</p>
植田教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、「なわての子どもたちに」という点を踏まえて、よろしく願いいたします。</p>
山本教育長職務代理者	<p>なわての子ども達に、先ほど委員長言われたように音学的な見方・考え方を持って、音楽を豊かにするという事であれば、様々な国の音楽とか、あるいは、日本の古典芸能含めてそういう様々な音楽に触れて、音楽的な資質を高めてほしいと思っています。</p> <p>そういう観点で両社比較をしました。</p> <p>巻頭の学習のめあてにつきましては、両社とも見開きで説明されていますが、教育出版については、単語になっているかと思います。</p> <p>そして教育芸術社は、非常に丁寧に説明をされている。例えば、旋律の響きあいと書かれている部分ついて、和音の響きや音の重なりを感じ取らせようと具体的な説明しているの、その部分がわかりやすいかなと思います。</p> <p>馴染みのある曲で、先ほどもいろいろ出たのですが、日本の曲については写真が両社ともあります。ただ教育芸術社の写真は少し大きいので、子どもの関心をひくかなと思います。</p> <p>それから、日本の音楽の中で、鯉のぼりとか民謡を教育出版は6ページで扱っていますが、教育芸術社は春の海の民謡を8ページで扱って、尺八と琴などの説明を非常に丁寧にされています。</p> <p>また伝統音楽では、両社ともえてんらくの舞をとりあげているのですが、</p>

<p>(山本教育長職務代理)</p>	<p>この雅楽につきましても、教育芸術社は付録まで使って非常に丁寧に詳しく説明し、巻末に振り替りでもとりあげていますので、非常にわかりやすいかなと思います。子どもたちが伝統音楽の雅楽にふれるということはほとんどありませんので、そういう意味で、詳しいのが良かったと思います。</p> <p>あとオーケストラあるいはアンサンブルについてですが、本市は、吹奏楽が非常に盛んな市であり、そう見ると小学校の頃からそういう吹奏楽に関する楽器等の扱いについて、詳しくふれていくということが必要かと思っています。そういう意味でいうと、両方とも2ページを通して大きな写真で説明をしているのですが、教育出版については巻末に吹奏楽の写真があるのですが、教育芸術社は、打楽器と管弦楽をととても詳しくページ数も多く説明をしていますので、全体像がよくわかるかなと思います。</p> <p>著作権につきましても、6年生は非常に大事なところなのですが、もちろん両社ともふれられていますけれども教育芸術社が少し詳しいかなという、そういう印象を持っています。以上です。</p>
<p>佃委員</p>	<p>本当に音楽の授業というのはこのコロナ禍の3年間、様々な制約を受けて、現場の先生方本当にご苦労しながら授業されたと思いますけれども、特に、リコーダー、器楽、鍵盤ハーモニカ等は、あまり演奏できなかつたり、エアーリコーダーみたいに吹いているふりをしたりということもよく聞きました。その間にやはり音楽づくりということについて、とても勉強させていただきましたという先生もいらっしゃいました。</p> <p>これからはやはり音楽づくりなどは、タブレットなどを活用すると簡単にできますし、例えば教育芸術社の日本の伝統音楽のなかの、さくらさくらの学習の後で、琴について色々学んだ後、日本の桜の音階を使って、旋律づくりをするとか、そういった自然な音楽づくりに進める工夫がなされているのが特徴的でした。</p> <p>教育出版社は、さくら変奏曲の演奏の紹介とともに、巻末にすべての楽譜と琴の魅力を載せておられました。</p> <p>やはり四條畷の子どもたちにも、日本の伝統音楽については丁寧に、そしていろいろな観点から学んでほしいという点からは教育芸術社の扱いがとても良いなと思いました。</p> <p>それから先ほど職務代理も仰っていましたが、教育芸術社の良いところが、楽器の扱いが丁寧に、4年生のいろいろな音の響きを楽しもうとか楽器図鑑のなかでも打楽器があつて、次フルートから木管楽器があつて、さらに大きくマウスピースや吹くところまで丁寧に写真で示されていてわかりやすかったですし、そういったものが演奏してみたいなと思えることがまた中学校に繋がっていくのではないかと思います。</p> <p>教育出版は、越天楽今様のところで、リコーダーとのアンサンブル、合わせてみる活動、これはうまくいくととても素晴らしい広がりのある活動では</p>

<p>(佃委員)</p> <p>植田教育長</p>	<p>ないかなと、こういったチャレンジも面白いなと思いました。以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、答申内容を勘案し、皆様方のご意見をまとめますと、共通事項のとりあげが多く、基本の学習に優れているという点。めあての丁寧な説明。楽器の細部までわかる大判写真等と詳しい解説。何を学ぶか、何ができるようになったかの確認。特に6年生では著作権等も扱い、全体的に高度な内容までカバーしているということ。</p> <p>そして、日本の音楽づくりといったこれらの観点から、教育芸術社がよりふさわしいと思われませんが、教育芸術社を採択することと決定してよろしいですか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p>
<p>植田教育長</p>	<p>異議なしと認め、音楽の教科書は、教育芸術社の教科書を採択することとします。</p> <p>続いて、図画工作についてお願いします。</p>
<p>木村選定委員長</p>	<p>図画工作は2社から教科書が出版されております。</p> <p>2社とも、図工の目標「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することをめざす。」をふまえ、児童の主体的な姿の育成や多様な学習の可能性を感じる教科書となっております。</p> <p>図工の教科書においては、材料や用具の取扱い、題材名、場所の設定、掲載されている写真の数や大きさ、とりあげ方などが大切であると考えます。</p> <p>作品例や題材、資料などが、児童の新たな発想や構想のヒントとなり、自分の見方や感じ方を広げられることなどが検討の観点となりました。以上でございます。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>それでは、それぞれの教科書を読まれてのご意見をお聞かせ下さい。</p>
<p>河田委員</p>	<p>まず、開隆堂出版ですが、学習のめあて、準備するものや片付け、注意することが詳しく示されていました。あわせて学ぼうでは、他の教科との連携、また、高学年の教科書では、図工で学んだことがどんな世界へ繋がっていくのか示されていて、子どもたちの夢が膨らむような工夫がされている点が良いと思いました。</p> <p>日本文教出版は、学習のめあてや目標が丁寧に示されていました。手や電球、顔のマークがシンプルで、何を示しているのかわかりやすかったです。作品の写真が大きく掲載されているので、どのように作品ができているのか</p>

(河田委員)	<p>確認しやすいと思います。高学年の教科書では中学校への繋がりが示されている点も良いと思いました。以上です。</p>
山本教育長職務代理者	<p>2社読ませていただいて、両方とも、子どもたちの作品の大きな写真が掲載されているところでは、非常に良かったと思っています。</p> <p>開隆堂につきましては、学習のめあてが3観点で工夫をされています。また委員会の答申にもありますように、全体の見通しが1年を通してわかりやすく書かれているというのが、良かったと私も思います。</p> <p>あとは小さな美術館でありますとか、あるいはみんなのギャラリーであるとか、そういうようなところで、鑑賞のうえにもいろんな配慮があって、特に多くのギャラリーとか美術館をとりあげるといことは良かったと思っています。</p> <p>子どもの作品については、製作段階から完成していくまで、順を追って写真を撮っているという部分があって、非常に作品の製作過程がわかって工夫されているなと思います。</p> <p>日本文教出版については、これは学校の意見書のなかにもありますけれども、教科書に出てくる児童の写真が多様であって、作品が大きく、例えば5年生の27ページなんかはとても大きな作品が出るというのが、とても良かったと思います。</p> <p>それから3年生、4年生を中心に、自然、あるいは地域との繋がりということで、子どもの活動とか、授業風景が写真として扱われているところがとても良かったと考えています。</p> <p>それから、非常に工夫されていて良かったなと思っている部分が、身近なものから想像していくという、そういう部分が、日本文教出版に見られていて、その部分も非常によくわかったかなと思っています。</p> <p>材料と用具の引き出しという部分があって、これについては、開隆堂もそういうところについてふれられているのですが、その部分の写真が非常に丁寧でよくわかりました。</p> <p>もう一つ特色としては、言葉から思い、想像を広げて作品を作り上げていくことで、例えば4年生では、ごんぎつねを読んで作品を作るという、そういう工夫がありますので、そのあたりは、非常に子どもたちに受ける教材ではないかなと感じました。以上です。</p>
佃委員	<p>開隆堂出版それから日本文教出版ともに、表現と鑑賞の活動のバランスが良くて、良い構成だと思います。</p> <p>特に開隆堂、最初の部分、例えば3、4年生ですけれども、表紙の裏にテーマパークのフロートがあつたり、夢のある造形で示したり、できたら良いなっていう子どもの言葉とともに、わくわくする感じがする教科書で、また裏面では3人のキャラクターが紹介され、見開きには、子どもたちの楽しそ</p>

(佃委員)	<p>うな活動の様子が台座のマークとともに載っており、子どもにとっては身近な教科書だなと思いました。</p> <p>日本文教は、最初に教科書の使い方を見開きで紹介されており、学習の進め方そして試す見つけるでチャレンジしようと呼びかけているのがとても良いなと思いました。学習のめあてを左上に掲げ、特に大きなめあてのヒントには指さしマークで囲んでいるのでわかりやすいと思いました。</p> <p>開隆堂の学習のめあては、上の方に載せて、観点別、3つに示しているのはわかりやすいと思いました。水彩の分野ですけれども、花の観察をして、絵に描いてみよう、そのあと友だちと意見交換しようといったような協働的な学びも随所に意識されているのは開隆堂でした。</p> <p>同じく、日本文教の水彩の方では、作品が大きく扱われているので、筆のタッチや色合いもわかりやすく、滑らせるようにスーッと、といったような、筆の進め方など技術的なヒントまで載っているのが良いなと思いました。</p> <p>鑑賞の分野ですけれども、開隆堂の小さな美術館では、ひまわりの絵、ゴッホや北斎などからアプローチして、ひまわりの絵について解説があったり、日本文教の3,4年生の土のライブラリーというのが素敵だなと思ったのは、土の自然の色をたくさん示されて、こんなに日本のなかにはいろんな豊かな色があるんだなという気づきをもたらす良い教材だなと思いましたし、土を感じてということ、実際にこの活動をやってみようと思うと教室が砂だらけになるのではないかとも思いましたが、そういった体で感じたりする、材質の違いを感じるアートなど、それを扱っているのはとても良いなと思いました。</p> <p>また、教科書美術館や、巻末の部分ですね、これは開隆堂にもありますけれども、材料と用具の引き出しでも、様々な扱いについて、丁寧に扱われていました。材料や用具の種類は開隆堂の方が扱いの種類が多かったと思います。以上です。</p>
植田教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、「なわての子どもたちに」という点でもお願いいたします。</p>
山本教育長職務代理者	<p>開隆堂については、最後に学びの資料というのが巻末にあって、このなかで、いろんなことでさらに学びを深められるということが良いと思いますが、ややイラスト中心になりすぎかなというきらいがあって、それは気になりました。</p> <p>それから日本文教出版ですけれども先ほど出ましたように、本市は自然の豊かなところですので自然の繋がりというのは、重要視しているのは良いと思いました。</p> <p>1年生で、触り心地というところから、作品を創造していく、その部分がずっと全学年に通ってきまして、6年生のところでは、42ページにありま</p>

(山本教育長職務代理者)	すけれども、自然を感じるといふところから作品を作っていくといふところで、そういう部分が本市にとってはふさわしいのではないかとはいいます。
	またなかなか図工というのは、子ども達自身は、粘土であるとかそういうところには繋がっていく、あるいは絵を描くといふところには繋がっていくのですが、いろんな作品を発想するといふ視点がやはり必要かとは思っています。
佃委員	<p>そういうところでひらめきの種という、図工の見方というページですけれども、この部分が日本文教出版にはあって、もちろんこれ開隆堂にもよく似た発想でされている部分があるのですが、作品を発想する工夫というのは、非常に詳しく載っていて、より本市の子どもたちにはふさわしいかと感じました。以上です。</p> <p>やはり図工を通して、様々な生活のことやキャリアやこれからの生き方や、いろんな気づきの教科だと思ふのですが、そういったなかで、開隆堂は巻末に未来に繋がる図画工作ということで、スタイリストやミュージシャンの活動など掲載されて、図工からそういった生き方に繋がるんだなっていう、キャリア教育としての気づきになっていてとても良いと思ひましたし、日本文教では広がる図工といふところから、生活を豊かにする形といふことで土器から凹凸のあるコップに着目したり、またゲルニカについて平和の祈りを扱うことで、図工から平和、そして道徳にも繋がるような教材が扱われていたのはとても良いなと思ひました。以上です。</p>
植田教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは答申内容を勘案し、皆様方のご意見をまとめますと、子どもの活動情景や材料の写真の掲載にて作品製作に向かう動機づけがなされている。自然との繋がりを重視したコンテンツ。図工の見方では作品製作における発想が膨らむヒントが示されている。</p> <p>これらの観点から、日本文教出版がよりふさわしいと思ひられますが、日本文教出版を採択することと決定してよろしいですか。</p>
植田教育長	<p>(「異議なし」の声)</p> <p>異議なしと認め、図画工作の教科書は、日本文教出版の教科書を採択することとします。</p> <p>続いて家庭についてお願いします。</p>
木村選定委員長	<p>家庭は2社から教科書が出版されております。</p> <p>両社とも、家庭の目標である「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工</p>

<p>(木村選定委員長)</p> <p>植田教育長</p>	<p>夫する資質・能力を育成することをめざす。」をふまえられていました。</p> <p>消費者教育、キャリア教育、環境教育の観点を踏まえ、生活体験と関連づけた問題解決的な学習が実現できるような教科書であること、また、調理実習や裁縫等の写真の扱いに加え、安全の確保や事故防止について、丁寧かつ見やすい構成になっているか等が検討の観点になりました。以上です。</p> <p>それでは、それぞれの教科書を読まれてのご意見をお聞かせ下さい。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>家庭については、2社で読ませていただきました。</p> <p>東京書籍は答申にもあったのですが、3ステップで、興味をもってそれを最終生活に生かすという形で、段階的に書かれているというのは非常に良かったと思います。</p> <p>一方、開隆堂は5ステップになっており、各課題ごとにめあてあるいは見通しを持ちやすい。そういうめあてを設定してあるのが良いという声も答申の内容です。</p> <p>そういうことをふまえて、東京書籍につきまして、やっぱり家庭の中で、実際には安全であるとか事故を防止するということが非常に重要なことですので、その安全につきまして、いつも確かめよう、あるいは各ポイントで安全をとりあげています。</p> <p>地震が起こった時の対策であるとか、あるいは包丁の持ち方とか、いろいろなものの扱い方など、非常に丁寧にとりあげられていたと思います。</p> <p>巻末にいつも確かめようということで、10ページにわたって調理のことであるとか、あるいは裁縫のアイロン、ミシンのことであるとか、そういうのが右利き左利き両方書かれていて、それも実物大で非常に詳しくて良かったと思います。あとプロに訊くということで、9人の専門家の方のいろいろなご意見がメッセージとして載っているということがありました。</p> <p>開隆堂については、キャリア教育の視点が、生活の体験との関連のなかでははっきりしていましたので、生活の中のプログラミングというようなことも含めて、そういう視点があつたかなと思います。安全につきましては、各ポイントでそれぞれ安全チェックがあつて、巻末にも非常に詳しい安全に関する資料がありました。また、実施に役立つポイントとして、調理とか製作についてこれも先ほど東京書籍と同じように、実物大の写真がありました。</p> <p>あと、プロに訊くという東京書籍に匹敵するものとして、キャリアインタビューというのをされてまして、これについては、21人の方についてそういうメッセージをいただいている。その中に、専門家プラスいろいろな考えを持った方のインタビューがありましたので、この部分についても、非常に子ども達の興味関心をひくかなというふうに思っています。</p> <p>答申の中にもう1点大事な視点として、男女の役割が固定されていないところが、男女だけに限らず多様性に配慮されているというところで、</p>

<p>(山本教育長職務代理者)</p>	<p>これが意識的であって非常によくわかるという、そういう意見もあり、私もそのとおりだと感じています。以上です。</p>
<p>河田委員</p>	<p>東京書籍は、学習の流れが3段階になっていて、学びが日常生活に繋がるように工夫されている点が良いと思います。また、単元ごとに学習の流れが3段階で示されているため、何をどう学ぶかわかりやすいと思いました。成長の記録は、何を学んだのか、どんなことを考えたのか、記録できるカラフルなシートで、子どもたちが楽しく学習を振り返ることができて良いと思います。</p> <p>開隆堂出版は、学習のめあてが気づく、見つける、わかる、できる、生かす、深めるという形で構成されていて、単元ごとにそれぞれ何をするのか示されているので、学習内容がわかりやすくて良いと思います。写真が多く、実際の活動の際にも確認をしやすく、調理実習や製作などの作業工程が横並びに掲載されているので、見やすいと思いました。生活に生かそうで学んだことと、日常生活とを結びつけて考えられるようにされている点が良いと思いました。以上です。</p>
<p>佃委員</p>	<p>両社とも生活の営みに係る見方考え方を働かせて、主体的対話的で深い学びの実現がなされるように工夫されていると思いました。</p> <p>東京書籍では、皆様仰っていましたが、学習の進め方、そして生活を変えるチャンスということで、より良く生活しようという実践に繋げる。またそこで何を学ぶかをイメージできるような工夫がされています。さらに続けて2ページで単元ごとの自己評価ができるようになっているのも良いと思いました。</p> <p>開隆堂は、教科書に物差しが印刷してあり、こういったさりげない工夫も家庭科の授業ではよく使うことだと思うので、良い工夫だと思いましたし、教科書のサイズが以前より大きくなって見やすくなったということも、意見に書かれていたかと思います。</p> <p>お味噌汁を作る単元などを比べてみたのですが、東京書籍では、配膳の仕方など左利き右利きを考慮してともに載せておられましたし、お味噌汁では具と味噌の準備について、火が通りにくい食品から入れてといったような丁寧な説明がなされ、さらにできたかなということで自己チェックできるという流れが良いと思いましたし、開隆堂は、旬の食材を使ったり、全国の郷土料理に繋げるという情報量が豊富だなと思いましたし、生かせる深めるというところでは、やってみた我が家の味噌汁ということで、自分で作ってみようというところまで扱われているのも良いと思いました。</p> <p>さらに、ミシンにトライというところでは、東京書籍も大きなミシンの絵とやってみようの練習カードが示されていて、ミシンの使い方が丁寧に扱われています。</p>

<p>(佃委員)</p>	<p>開隆堂はソーイングで生活を豊かにということ、実際に布を縫ってみようのところで、まずはボビンケースやすべての器具について丁寧に扱われていて、その後の作る部分についてもバラエティがあって面白いなと思いました。</p> <p>巻末には、東京書籍は、いつも確かめようということで、包丁の握り方とかミシンの扱い方まで、永久保存版ということでこれは中学校になっても生活に役立つ良いデータだなと思いますし、開隆堂は実習に役立つポイントがわかりやすい写真で、絵で示されているのがとても良いなと思いました。以上です。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、「なわての子どもたちに」という点でお願いいたします。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>やっぱり基本的なことがきっちり押さえられることが、私は大事なかなと思っています。</p> <p>今も触れられましたけれども、例えばソーイングであれば、安全に留意しているかどうか、あるいはどういうふうに作ってあげればわかりやすいのかと、そういう基礎基本が押さえられているかと思っています。</p> <p>東京書籍は、とても安全面に留意をしてソーイングの部分を書かれていますし、開隆堂は作品例が多くて、巻末に左利き右利き両方の製作活動がとりあげられていて、これはとても良かったと思っています。</p> <p>また日常生活の問題では、SDGsの関係で、東京書籍は、5年生で食品ロスを扱っています。開隆堂は、5年生のまとめでそういうことを扱っているのですが、生活と環境ということで、リサイクルとか、あるいは巻末にキャリアインタビューするという形で、非常に基本的なことが細かく書いているかなと思いました。</p> <p>あとはガスの使用、調理実習の使い方については、東京書籍は安全に使うということ、IHも含めて非常に丁寧に書かれています。開隆堂の方は、調理の流れということでこれは答申の中にもありますけれども、実習の作業が横流れで2ページにわたって、わかりやすいということで、そういう調理実習の流れがよくわかるようにまとまっていたと考えています。</p> <p>本市にとりましては、安全面の配慮であるとか、あるいは身近な生活から環境問題とか生活環境を学んでいくということが必要ですし、またキャリア教育の視点をこの家庭科の中で養っていくというのは大事ですので、そういう点から、今、述べたようなことになるかと思っています。</p>
<p>佃委員</p>	<p>私はやっぱり家庭科では、生きて働くというか実践的態度を身につけてほしいと考えますけれども、開隆堂の締めくくりには、持続可能な社会のために、SDGsの中では自分自身が毎日取り組めることを考えるというところ</p>

(佃委員)	<p>ろがとても良いと思いましたが、巻末で生活の中のプログラミング的思考ということで、ご飯を炊くとか洗濯するなどをフローチャートで考えるというところがありましたけれども、こういった実際に自分で考えて作ってみるとい、それをプログラミング的思考と繋げたところの工夫などは、これからの子ども達にはとても良いのではないかと思いました。以上です。</p>
植田教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、答申内容を勘案し、皆様方のご意見をまとめますと、手順が簡潔明瞭に示されていて、生活に密着した学びができる。安全環境、SDGs、防災、伝統文化等の扱い。多様性の配慮、キャリア教育へのリンケージ、繋ぎですね。そして生活の中のプログラミングでフローチャート作成を扱っていて、プログラミング的思考に適する。</p> <p>これらの観点から、開隆堂がよりふさわしいと思われませんが、開隆堂を採択することを決定してよろしいですか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p>
植田教育長	<p>異議なしと認め、家庭の教科書は開隆堂の教科書を採択することとします。続いて、保健についてお願いいたします。</p>
木村選定委員長	<p>保健は6社から教科書が出版されております。</p> <p>どの教科書も、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することをめざす。」という目標に則り、よく工夫されていました。</p> <p>保健では、自らの健康や安全の課題解決に向けて、児童が主体的に学び、自ら改善していくための具体的な資質能力を育てるための内容が盛り込まれているか、コンピュータの使用やいじめの問題など現代的な課題をどのように取り上げているか、また文章や写真、挿絵やグラフ等の資料の扱いはどうか等が検討の観点となりました。以上でございます。</p>
植田教育長	<p>それでは、それぞれの教科書を読まれてのご意見をお聞かせ下さい。</p>
河田委員	<p>私からは2社ですが、まず大日本図書です。折り込みカードはこれから学ぶことを隠して「つかもう」に取り組むことができ、子どもたちが主体的に考える工夫がされていると思いました。また、カードには活動のヒントが書かれているので、保健の授業やその他の活動にも活用できて良いと思います。振り返りのもっと知りたいでは、関連するページ番号が記載されていて、学んだことを振り返りながら知識の幅を広げることができて良いと思います。</p>

(河田委員)

3、4年生の様々な性についてのところで、LGBTという言葉が出てきていた点は特徴的だったと思います。また、ミニ知識では、健康に関する豆知識や英語のことわざが書かれていて、子どもたちの興味をひく内容だと思いました。

学研は、この教科書と保健の学び方や、学習の目標が大きく示されているので、どのように授業が進んでいくのかわかりやすく、保健での学習が他のどの教科に繋がるかについても記載がある点が良いと思います。単元の終わりにある保健の箱は、健康に関わる仕事をしている人へのインタビューや健康についての身近な話題が書かれていて、子どもたちの興味を引き、学びが深まると思いました。

振り返りのもっと知りたい・調べたいのページでは、関連するページ番号が記載されていて、学んだことを振り返りながら知識の幅を広げることができて良いと思います。教科書には、自分の考えや学んだことを記入する欄がありますが、鉛筆でも滑らずに書き込みができる紙質だと感じました。以上です。

山本教育長職務代理者

保健につきまして各社とも、学びの様式については単元の右ページ、あるいは左ページの上から始まるということで、きれいに統一のとれた体裁になっていると思いました。

東京書籍については、4ステップになっていまして、特に3番めの深める伝えるというところで、意見を聞いてわかったことを書くという指示があり、どういうことをすれば良いのかが非常によくわかると思いました。

それから各章の初めに関係するSDGsのコンテンツがあり、今どういうことを考えなければならないのかというのが非常によくわかります。プラス、1ページで章の学びの説明があつて他教科への繋がりを持っていくというところでは、非常によく考えられているなと感じました。

大日本図書は、私が感じたところでは、話し合うということを目的にして、5ステップでやっているのですが、その学習の流れの中で、話し合うということがとても技術的な形で示されているというのはよくわかりました。各章の導入については、どうやって学習するのかということで、目標があつて、次のその2ページで学習の説明をしていますので、非常にとっつきやすいなという感じを受けました。

文教社ですが、各単位ごとに学習のめあてから発展まで、9段階のステップを踏むようになっていまして。そのステップの指示が、メニューから始まって、エピソードがすべて英語での指示になっているところが新しいと思いました。各章末には、私の健康宣言というのがあつてこれは非常によく工夫された1ページであると思っています。

3年生4年生には、思春期の心の変化の扱い、これはおそらく文教社だけがされていると思いますけれども、そういう扱いをし、その中で、ジェンダ

(山本教育長職務代理者)

一であるとか、平等であるとか、個性であるとかにふれられていて、これはとても良かったなと思います。また5年生で不安や悩みの解消ということを重点的にとらえるページがあり、不安を抱える子ども達が多い中で、この部分は非常に良いと思いました。

続いて、光文書院は、巻頭の2ページで、保健を学ぶ皆さんへというメッセージが非常に新鮮だなと感じました。

学研は、調べる、話し合う、学びを生かすという、3ステップがあって、このステップにつきましては、東京書籍は1 2 3 4という表示、学研については1 2 3という数字の使用をしています。他の出版会社については文字であるとか、あるいはイラストであるとかが多いのですが、東京書籍は3つの1 2 3という数字でステップを表しており、非常にはっきりとわかるなと思いました。章末に振りかえる、伝える、つなぐというところで、まとめのページがありますので、この1 2 3のステップを踏んで章末に行けるというところで、とても系統的であると思いました。

それから資料、これはパソコンとかタブレットと、健康、あるいは保健の箱でコロナ、ちょっとコロナは編集の時期的な問題があるかと思いますが、簡単にしかとりあげられていませんけれども、そういう取り合いがあって、全体にまとまって見やすいなという、そういう印象を持ちました。性の多様性については3年生、4年生で相談窓口を紹介しているというのも新鮮だったなと思います。

大修館書店は、これは課題活動、あとまとめという、活動の中には、話す、考える、調べる、やってみようという、4つの中から2、3単元を選んでもという形で、3ステップであり、なおかつ系統的にできているとは思いました。

答申の中には、体育の窓で運動と健康を具体的に考えられる教科書であるというように書かれていましたけれど、私もそのとおりだなと思いました。まず巻頭で生活の中の保健探しという、これはとても良いページだなと思いましたが、その部分から始まって、あと各単元で、いろんな人物をクローズアップしていくというところで、子どもたちがそう考えやすい仕組みになっているなと思っています。

特徴としては、学校の健康を守る活動ということで、これは他の出版会社でもとりあげているところがあるのですが、学校医それから子ども達の保健委員会の活動とかを、特に3、4年生で1ページにわたって丁寧に取り上げているというところが、良い取り組みだと思いましたし、もう1点は、仲間づくりということで、3、4年生の部分ではいじめ問題、5、6年の部分では言葉とかバリアフリーとか、そういう社会との関係を押さえていって、特に3、4年生では多様性の尊重ということで、みんな違ってみんな良いという、はっきりした形で指摘をしているところが特徴で良いと思いました。以上です。

<p>佃委員</p>	<p>各社ともに、教科の目標達成のため、適切な内容がとりあげられていると思います。</p> <p>まず学研ですけれども、巻頭で、保健の学習は世界と繋がっている、SDGs、誰1人として取り残さないという理念が示されているのが興味深かったですし、随所に自分の考えを書き込む欄がたくさんあり、ワークブックのように使えるのではないかなと、これは答申にもありましたけれども、そう思いました。</p> <p>それから振り返る、話し合う、学びを生かすという3つのステップで、特に3つめの学びを生かすでは、どうすれば、例えば風邪を防ぐことができたのか、Nさんにアドバイスを考えるなど、目標について他者に伝える力を養うという目標がありますけれども、そういった教科の目標にも繋がっていると思いました。</p> <p>それから東京書籍は、コールとプールのキャラクターのつぶやきで、うまく気づきを促しているなど思いました。巻頭にはこんな力をつけよう学習の進め方で、3つのステップを示して話し合う、調べる、比べるなど、活動の例を示してわかりやすいと感じました。単元の最初には何を学ぶかが示されて、ページの右上に学習の進め方を4つのステップで資料とともに掲げられていて、まとめのミニテストもあって確認ができ、さらに資料で深められるという綺麗な流れになっています。</p> <p>文教社は、単元の最初には写真を大きく掲載したなかに、学習するタイトルを順に配置している工夫があり、先ほども仰っていましたがあえてミッション、ステージ、ミッションなど、英語のタイトルで興味深くひきつけているように思いました。病気の予防などでは病気の原因について、イラストから状況を深く考えるようになってわかりやすいと思いました。</p> <p>光文書院では、巻頭に私と健康で有名人の言葉を紹介して、紀平さんやヒヤダインさんなど、子どもたちに身近な人の言葉を紹介して注目させていました。それから、見つけよう、話し合おう、考えよう、生かそうということで、1ページで簡潔に学べる工夫がされているなど。そこから広げよう、深めようと資料が大きく扱われて、新型コロナなども詳しく掲載していると思いました。以上です。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは「なわての子どもたちに」という点でお願いいたします。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>各社ともいろいろな取り組みをして、子どもたちが自ら健康とか、安全を解決していくための方策を、いろいろと考えられていると思いました。</p> <p>光文書院については、生活に使う視点というのがあり、こうすれば良いということではなくて、まとめた後に自分で考えさせられるということで、こういう視点は、今の本市の子どもたちには非常に大事かと思いました。</p>

<p>(山本教育長職務代理者)</p>	<p>大修館については生活の中の保健ということで、これを考えさせる視点は本市の子どもにも必要だと思いますし、本市に限らず大事な視点かと思っています。</p> <p>大日本図書については、先ほどもちょっと言ったのですが、どうやって勉強すれば良いのか、学習すれば良いのか、ということでの目標がはっきりしていますので、子どもたちはとっつきやすいという印象を受けました。</p> <p>それから文教社については、特に自然災害のところで、本市も非常に関係する部分なのですが、自助、共助、公助など、こういう社会関係を重視するという視点が非常に良かったと思います。</p> <p>東京書籍については、今日的課題ということで、自分らしさをどういうふうに考えていったら良いのかということで、エイズやコロナについての取り組みもありましたので、そういうところは、今の本市の子どもたちには、現代の課題としてとっつきやすいかなという印象でした。そして先ほど言いましたように、流れが1、2、3、4という数字になっていますので、非常にわかりやすいと思います。</p> <p>学研につきましては、自分の問題、怪我とか犯罪とか、あるいは自然災害、そういう自分の身近な問題として考えることができる仕掛けがありました。先ほど言いましたように、保健の箱などでそういう仕掛けがあり、自分と保健とを繋いでいくという構成になっていますので、非常にわかりやすい、使いやすい教科書かなという印象を持っています。同じように流れにつきましては、数字で1、2、3となっていますので、子どもたちにはよくわかるかなという印象です。以上です。</p>
<p>佃委員</p>	<p>四條畷の子どもたちにはやはり心身の健康を保持増進するという観点でいくとやはり自分自身で実践的態度を見つけることがとても大事だと思います。</p> <p>学研の教科書では、例えば虫歯の予防などでは、自分自身の自己チェックを8項目からスタートして、生活習慣の例から仲間と一緒に話し合える仕組みがあったり、さらに、避難行動など緊急事態に備えたAEDのことなどがもっと知りたいのところで扱われているのは良いと思いました。</p> <p>東京書籍の方では、コロナのところで、新型コロナに関する新聞記事を載せていたのですが、インターネットの情報の危うさについても触れているあたりはとても良いと思いました。以上です。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ただいまの答申内容を勘案しまして、皆様のご意見をまとめますと、まず3ステップで1単位時間の進め方が統一されている。自らを振り返り、理由を考える記述により、深め、定着をさせやすい。またカリキュラムマネジメントを行いやすい構成、これらの観点から、学研がよりふさわし</p>

(植田教育長)	<p>いと思われませんが、学研を採択することと決定してよろしいですか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p>
植田教育長	<p>異議なしと認め、保健の教科書は、学研の教科書を採択することとします。続いて、英語についてお願いします。</p>
木村選定委員長	<p>英語は6社から教科書が出版されております。</p> <p>英語の目標は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。」です。</p> <p>聞くこと、話すことを中心に、読むこと、書くことへと児童の意欲を高める構成になっていることや、目的や場面、状況に応じたコミュニケーションが図れるよう設定されていること等がポイントとなると思います。</p> <p>特に、文章、写真、挿絵、言語材料のサイズや配置、書くことの分量、4線幅の比率、Can-Doリストの扱い、中学校への接続などが検討の観点となりました。以上でございます。</p>
植田教育長	<p>それでは、それぞれの教科書を読まれてのご意見をお聞かせ下さい。</p>
佃委員	<p>英語の各会社についても、英語によるコミュニケーションにおける見方、考え方を働かせて、主体的、対話的で深い学びが実現できるように工夫されていると思います。</p> <p>英語科外国語科につきましては、2020年から必修になり、5、6年生で教科となったため、週2回、学校現場では大変苦勞しながら、いろいろな指導を試んでおられると思います。</p> <p>書くことについて、とても最初は戸惑われたと思いますけれども、現場では少しずつ先生方が教え、定着するように努力されているという点も聞いていますし、扱う語彙数も700近いということは大変多いのですが、これからどう先生方と子どもたちと身につけていくように努力していくのかというところも大切な観点かと思って調査させていただきました。</p> <p>開隆堂は、選定委員会の資料にもありましたけれども、各単元に聞く、読む、話す、書くを網羅するアクティビティの数が大変豊富であるなど思いました。5年生の教科書では、3、4年生で学習したことと、音声やイラストを手がかりに思い出し、すべてのセリフに英文がついていることには驚きました。クラスルームイングリッシュが丁寧に扱われていて、キャンドウチェックにつきましては単元ごと、各技能ごと、字も細かく示されているのが良いと思いました。</p>

<p>(佃委員)</p>	<p>教育出版は、子どもの学校の様子を、絵のみで示されて、ゴールを吹き出しで示されていて、A t a S u p e r m a r k e tなどの時にもアルファベットは大文字のみ、I n t h e F o r e s tでは小文字のみというふうにゴールの吹き出しがわかりやすく使われていたかと思います。</p> <p>光村は、5年生では、いつも大切という単元では、スマイル、アイコンタクト、クリアボイス、レスポンスという、コミュニケーションで大切な観点をカードになって常に示されている。そういったものが活動に使えるのだろうと思いましたが、キャンドウリストが技能別で到達目標がまとめられていて、大変わかりやすいと思いました。3, 4年生で学習した表現について、5年生では、絵のみで、リスニングでNOを入れるだけとか、アルファベットとローマ字との違いを確認するというわかりやすい表記で良かったと思いました。以上です。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>英語については各社、読ませていただいて、本市の英語の検討課題としては委員長が言われたように、聞く、話すを中心にして、読む書くと意識を高めていくということは大事だと思っています。</p> <p>そのためには、英語嫌いを作らないということが小学校の英語にとっては、私は非常に大事だと思っています。そういう点で、各社を見させていただきました。</p> <p>東京書籍につきましては、構成は基本的には各2ページでわかりやすくできていますので、とっつきやすいかなと思いますし、最初の導入の映像がアニメになっていることで、子どもたちには導入しやすいと思います。途中でエンジョイコミュニケーションというのがあり、その部分の中で、英語をどれだけエンジョイできるのかという視点で作られているところは良かったと思います。</p> <p>単元目標も伝え合おう、紹介しよう、聞き取ろう、各単元ごとに映像を見て考えよう、という形で、二次元コードを使うという設定になっていますので、ページ数は少ないのですが、すべてがスモールステップを意識して、聞くことからスタートされている。ゴール時に伝える活動が入ってくるということで、構成としては非常に、子どもたちが使いやすい教科書と思いました。</p> <p>それから6年生で世界と日本ということで、中学校との繋がりが3ページにわたって書かれています。あと辞書が別冊になっていて、表現例というのが、結構充実していますし、先ほど言われたように、キャンドウリストも、読みの5領域で、きっちり書かれているところは良かったと思います。</p> <p>答申の中では、食生活、行事、それから世界の名所など、幅広い題材を使っていて、国際理解に繋がるという、答申をもらっていますけれど、5年生のテーマが日本で繋がる、6年生のテーマが世界へ繋がるということで、イラスト写真が見やすく配置されていますので、そういう意味でいうと、子どもたちが、国際理解にとっつきやすい教科書という印象を持ちました。</p>

(山本教育長職務代理者)

開隆堂につきましては、5年生、6年生を通して1人のストーリーがずっとあって、單元ごとのゴールあるいはめあてが右ページの上とか、左ページの上とかに綺麗にわかれて書かれていて、単元は、8時間の今の時点がどこにあるのかということ塗りつぶし、あるいは、7、8限で言語活動を発展させていくとか、パターン化していますので、非常にわかりやすいという、そういう印象をもちました。

キャンドゥリストについては、4技能でしていますので、4技能が良いのか、あるいは5領域が良いのかという問題があるかと思いますが、開隆堂については、4技能で広くできるようになっているというところは少し他社と違うところだと思います。また、人物の写真とか地域の写真等、豊富に載っていますし、社会的課題とかあるいは伝統文化等が、特に5年生ですけれども、そういう部分がありますので、子どもたちには、親しみやすいのかと感じました。

三省堂は、これもさらにパターン化をされていて、ホップステップジャンプの仕組みになっているのですが、ホップが1ページで、ステップがレッスン1、8ページ、レッスン2、10ページ、それがパート1、パート2とわかれている部分があるのですが、あとジャンプが2ページという形で、各単元がユニットとして綺麗にパターン化されているところが子どもたちはとっつきやすいかなと思いました。学校意見書には、視覚に配慮して見やすく色合いが良いという意見もありました。

各パートにいろいろ項目があり、その項目を追っていけば単元の勉強ができるということになっていますので、そういう工夫が良いと思いますし、ユニットごとのねらいは、学年で3つの言語活動をするということなので、これを追っていったら、大体40ページでまとめるという形ができますので、段階を追っていけばきっちり学習できるという工夫があるのが三省堂だと思います。

教育出版につきましては、特に5年生で、目次には全く日本語はないという形で書いていて、英語に会う、とにかく触れていくのだということなので、取り組んでいるかなと思います。その分、スタートメニューが6ページにありますが、その発想がとても良かったと思います。

これは先生の発言されている英語の単語を世の中から探すということで、アルファベットなどを探していくという形ですので、先生が非常に使いやすかなと思います。それから系統立ててされているのは、映像を見て、活動、言うとか聞くとかアクティビティですけれども、活動をして伝えて振り返ると、非常に系統的に組み立てられているのが良かったと思いました。

光村図書については、各ユニットにゴール、ホップ、ステップと、話す、聞く、読む活動へ段階ごとに進んでいくので非常にわかりやすいと思いました。あとは各学年3ヶ所にですね、ユニットの1、2、3をまとめて、さらにまとめがあるという形で非常によく工夫されていますし、ステップごとに、

<p>(山本教育長職務代理者)</p>	<p>子どもたちが話し合いをできるという協働作業をしていくという部分もありますので、これについては評価できるかと思います。</p> <p>キャンドゥリストについても、読みの5領域についてきっちり確認ができるようになり、その自己評価ができるところがとても良いと思います。</p> <p>また巻末に、中学校への連携がまとまってありますので、この部分も子どもたちはとっつきやすいと思いました。</p> <p>あと啓林館ですけれども、巻頭にプレユニットは4ページとなっていて、コミュニケーションに大切なことを2ページにわたって書いているというのはとても良かったなと思っています。それから6年生の表紙の裏側に場所ごとに出てくる国を世界地図の中で示しているのは啓林館だけだと思いますので、子どもたちの意識付けには、こういう工夫も大変よくされているなという、印象を持ちました。以上です。</p>
<p>佃委員</p>	<p>巻末についている、ピクチャーディクショナリーとか、そういった付録の部分ですけれども、特に開隆堂の別冊は、学校意見書でも評価する意見が多かったと思うのですが、目次、索引、言いたいことなど自分で大変活用しやすいと思いました。光村のピクチャーディクショナリーは、災害についての記述など、そういったあたりも生かせると良いなと思いましたし、東京書籍のピクチャーディクショナリーも、独自のもので大変良いと思いました。</p> <p>それから、単元の中ですけれども、開隆堂は、マイヒーローで、クラスのみんなのヒーロー図鑑を作ろうということで、様々なアクティビティが用意されていますが、映像から考えたり得意なことをペアで活動したり、ポイントゲームやカードゲームなどいろいろなゲームが入れられていたり、そして最後に、先生にマイヒーローを紹介する。そして世界のスポーツへということで、1つの単元の中で本当に盛りだくさんなアクティビティーや、内容が盛り込まれているなと思いました。</p> <p>開隆堂は、ページの右に、自分がどこの単元の何を学んでいるのかをわかりやすい記号で示されていて、これも良いなと思いました。</p> <p>また、光村は、同じようマイヒーローイズマイブラザー、自分の興味関心を伝えるために、憧れの人を紹介することができるということで、ロボットクリエイターから大坂なおみさんまで、いろんな人の有名人の写真を導入されて使われて、それらを組み合わせて自分のマイカードをつくるというところまで活動があるのですが、誰もが容易にカードが作れるようにシンプルな活動でまとめられていて、先ほど職務代理もおっしゃいましたが、巻末のオールアバウトミーについては、自分自身のことを書き入れられる世界に一つだけのシートづくりということで、面白い活動だと思いました。</p> <p>同じく教育出版社では、マイヒーローマイドリームフレンズというところで、憧れの人や友だちになってみたい人を紹介しようというところで、身近なくまモンや大谷翔平さんなどを写真で紹介した後、今度は聞いて絵の写真</p>

(佃委員)	<p>を結ぶわかりやすい活動から始められて、あと友だちと交流する、得意なことを聞いたりクイズを出し合うなどのアクティビティがあって、最後に憧れの星空づくりということで、協働的な活動にいきなっていて、大変良いと思いました。以上です。</p>
河田委員	<p>どの教科書もカラフルなイラストや写真が多く使われていて、楽しく学び英語を苦手にさせない工夫がされているように感じました。</p> <p>その中で、光村図書出版は教科書が小さめで使いやすく、各ページの情報量が子どもたちにとって適度であるように感じました。見る、聞く、話すなどのマークがわかりやすく、ページ内のレイアウトもすっきりしていて見やすいです。巻末のピクチャーディクショナリーは、切り離して使えるため活用しやすいなと思いました。</p> <p>オールアバウトミーは、かわいらしいデザインの振り返りシートで、単元終了ごとに一つずつ書き込んでいくことで、学年末にシートが完成するようできていて、子どもたちの学習意欲の向上と達成感の獲得に繋がり、また友だち同士の交流などに使える点が良いと思いました。</p> <p>啓林館は付録シートの会話を楽しむフレーズ集を教科書から切り離すことができるため活用しやすいと思います。ユニットに沿った外国の文化やSDGsなどの資料があり、子どもたちが興味を持って学習を進められると思いました。また、キャンドゥリストは、子どもたち自身の振り返りだけでなく、保護者が見ても自分の子どもの目標達成度が一目でわかる点が良いと思いました。以上です。</p>
植田教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、「なわての子どもたちに」という観点でお願いいたします。</p>
山本教育長職務代理者	<p>教科書をいろいろ見させていただいて、辞書が別冊になっているのが東京書籍、光村、三省堂、開隆堂かなと思います。そして、キャンドゥリストが読みの5領域に掲げている分が、東京書籍、光村、啓林館の3社かなと思います。</p> <p>そういう意味で本市の英語教育のことを考えたときに、これだけをもとにして決めるばかりではないのですが、キャンドゥリストについては、今、こういう主体的な学びと協働的な学びというところで、特に協働的な学びを大切にしたいというのが、本市の教育理念ですので、そういう意味で言うと、読みの5領域ですべきではないかなと思っています。</p> <p>従って、話すという部分の中を、相互のコミュニケーション、やりとりの部分及び自分自身が発表していくという活動を取り入れているという観点から、実際の英語教育の中では非常に難しい部分があるのですが、それを小学校に求めるのはどうかという点もありますけれども、そういうところをき</p>

<p>(山本教育長職務代理者)</p>	<p>ちりと、意識して教科書を作られている形の中では、それを大事にしていきたいと思っています。</p> <p>それから、いろんな世界の中あるいは日本の中のことをやっている時に先ほども言いましたけれども、啓林館は教科書に出てくる国を世界地図の中できっちり表している。ところが光村については、世界地図になく6年生のときに日本の位置だけを示しているというところがありますので、これ自身がそんなに問題なのかといったら問題ではないのですが、書かれるのであれば、啓林館のように、丁寧にされるのが良いのではないかなという印象を持ちました。</p> <p>一方、光村図書については、答申の中にも情報量が非常に適して本市の児童に適していて、余白等もあって読みやすいという指摘がありますので、このこと自身は、大事な視点と思っています。</p> <p>あと開隆堂につきましては、ストーリーがあって、それでデジタル教材が自主学习としてうまくできているが、ただその中に、リスニング対応ができていますのでそのあたりが本市の中でどこまで必要かということの、判断はあるかと思えますけれども、私個人的には、とてもストーリー性がありますしデジタル教材が整っているということについては、評価をしているところです。以上です。</p>
<p>佃委員</p>	<p>私も開隆堂の教科書には、他の教科の関連としても、ストーリータイムというところでは5年生で日本の良さ、6年生で世界の良さということで、丁寧に扱われていたり、二次元コードなども、さまざまな活動に生かせるような配慮がなされていたかと思えます。</p> <p>それから光村は、言葉について考えようというコーナーでは、例えば日本語と英語の語順の違いに気づく、そういった部分の組立ての丁寧な説明でありますとか、相手の心に届くスピーチということを、スピーチについて考えるところとか、いろいろ使い方が広がるなというコーナーは興味深かったですし、ページの右下を見ると紛らわしい子音などに自然に気づくような、そういった配慮まであって大変行き届いた教科書だなと思いました。以上です。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは答申内容を勘案し、皆様方のご意見をまとめますと、英語の4技能5領域について、キャンドゥリストで確認、協働的な学びが促進されるという点。ピクチャーディクショナリーが分冊にて、教科書との同時使用で書き込みしやすいという利便性、さらに既習事項確認、これは3、4年生の復習で確かな学力に有効。そして適切な内容ボリュームとその領域ということで、以上の観点から、光村図書出版がよりふさわしいと思われませんが、光村図書出版を採択することと決定してよろしいでしょうか。</p>

<p>植田教育長</p>	<p>(「異議なし」の声)</p> <p>異議なしと認め、英語の教科書は、光村図書出版の教科書を採択することとします。</p> <p>続いて、道徳についてお願いします。</p>
<p>木村選定委員長</p>	<p>道徳は6社から教科書が出版されております。</p> <p>いずれも、道徳の目標「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己をみつめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」をふまえ、よく工夫されてきました。</p> <p>読み物の内容として物語や体験、国内外の伝記等のバランスはどうか、別冊の有無とともにその編成の仕方がどうであるか、文字・写真・挿絵等の配置や見やすさ、人権尊重の観点等もポイントであると考えました。</p> <p>また、児童の発言や思考を促し、自分自身がどう感じ考え、どう生きるかという心情や態度などを育むことに繋げていけるかなどが検討の観点となりました。以上でございます。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>それぞれの教科書を読まれてのご意見をお聞かせ下さい。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>道徳は今言われたようによりよく生きるための基盤となるために、実際は人権尊重ということが一番大きな課題と思いますし、子どもたちが自分の道徳律を確立するためには、いろんな物語等に触れて、自分で考えていくという視点が大事かと思っています。</p> <p>そういう点で読ませていただいたのですが、東京書籍につきましては編集方針を述べられているように、考えて議論する道徳だというふうに言われてまして、考えるということについて、それはもう学習のなげかけになっていて、子どもたちが非常に考えることができる。</p> <p>1つは自分のことを見つめて考える。もう1つは、道徳的価値について考えるという視点が明白で、これを考えていくことによって、社会に繋がっていった自分の考えも広がっていくという、そういう仕掛けになっていると思います。</p> <p>現代的な課題の取組みについても、いじめとか情報モラルとかSDGsも含めてですが、そういうところの取組みは、まんべんなくうまくできていると思います。また感心したところは、体験的学習ということで、1年生で特に取り上げているのですが、自分がこぐまになって考えようという視点で子どもたちに考えさせるというところが、64ページにあります。これは子どもたちが考える上で、考えやすいですし、またそれを考えることによって自</p>

(山本教育長職務代理者)

分に返ってくるということで、非常に大事な視点というふうに思っています。そういう考えるを通じて問題解決的な学習をしているというのが、東京書籍かなと感じました。

答申の方でも、繋がり広がるで多様な指導であって、道徳的価値を深める学習に活用できると書かれていますので、そういう教科書だと思っています。

教育出版については、私の印象としては、多種多様な教材で、非常に教材が多くて、すべてのことが扱われている。従って、子どもたちの関心が非常に広がっていくなという印象を持ちました。

光村図書出版は、一番感じたところは、話し合えるクラスづくりということで、自分で考えるという、いじめとかに大きく特化をしているのですが、自分で考えてクラス全部で話し合おうという、そういう視点がとても良かったですし、光村図書出版は、繋げようというところで、他教科との関連とか日常生活とかの関連というところに常に発展的な学習としては持っていていきますので、そういう視点も良かったと思います。

あとは日本文教出版は、道徳ノートが別冊になっています。別冊の是非はあるかと思いますが、私自身は自分の心の成長の記録という形でできますので、子どもたちがうまく使えるような工夫があれば、有効なノートと思っています。

各学期に1回、年3回、いじめ防止ユニットがあって、人との関わりとかをいじめについて集中的に取り上げるというページがあります。学校意見書からは、直接的ないじめ、間接的ないじめ、それからいじめ防止等、組み合わせられて書かれているので、取り組みやすいという指摘がありました。

光文書院は、見つける、考える、まとめる、広げるという、実際には見つけるはテーマですので、考え、まとめ、広げるという形で構成をされています。

考えるが2つあり、まとめて広げるというところで、1つの単元について、4つの考えを子どもたちがしていくという形になっているのですが、見つけるところのテーマに、主題に対しての発問がとても多くて、発問を重視していると思いました。

各学年で特に考えたいことを3つ提示をしています。巻末に学びの足跡、この部分が授業記録になって1年間の振り返りができます。この学びの足跡は、先ほど述べました日本文教出版の道徳ノートの別冊の部分をもう少し簡単にしたものかと思っています。

それで、現代的な課題として、どの会社でも取り扱ってられる、生命の尊厳、自然環境、人との共生、情報モラル、それから安全、健康、キャリアというのがありますが、光文書院の特徴は、レジデンス、立ち直るということ、これは5年生のところで言葉として出てくるのですが、実際には1年生から、各学年、へこんでも立ち上がるというのを、1から2ページで取り上げています。例えば1年生であれば、自分の良いところ、5年であれば、

<p>(山本教育長職務代理者)</p>	<p>立ち直り曲線という形で取り上げていまして、これについてはとてもよく考えられた取組みだなと思います。取り上げるという影響のことでいじめについては、残念ながら各学年で1回程度ぐらいしか触れることはできないというのは、ちょっと残念と思いました。</p> <p>それから言葉の宝物というのが書かれています。これは知ってほしい、あるいは素敵な言葉の特集ということで、各学年で、こういう言葉に触れていくということについては、非常に子どもたちに良い結果を出すのではないかと思います。</p> <p>Gakkenにつきましては、テーマがしっかりしてて、未来に向かって進んでいこうみんなで輝こうという形で、命を最優先のテーマにしているという印象を持ちました。いじめ防止の取組みとか情報モラルについては、1年生から6年生まで継続的に取り上げていますし、そういうところでは、命の尊厳を考えるという、子どもたちにとっては大事なことを考えさせる教科書と思いました。以上です。</p>
<p>河田委員</p>	<p>私からは2社です。まず、光村図書出版です。道徳で学ぶ20の扉や道徳みちあないで1年間に何をどう学ぶのかがまとめられていました。繋げようで他の教科との関連づけができるようになっている点も良いと思います。</p> <p>学びの記録はできたことのシールを貼るようになっていて、楽しく学習の振り返りができ、学習意欲が湧く工夫がされていると思います。また一言感想に、授業中に考えたことを書き込めるようになっている点も良いと思いました。</p> <p>日本文教出版です。生きる力というタイトルがとても良いなと思いました。考えてみよう、見つめよう、生かそうと、段階を踏んで学び、学んだことをどう生かすか考える流れになっていて、子どもたちが主体的に学ぶ工夫がされていると思いました。</p> <p>巻末の見つけたここにも道徳は、日常生活や身の回りの事柄と道徳の授業を関連付けることができている点も良いと思います。また、付録の道徳ノートは、自分の考えや感じたことなどを自由に書き込める仕様になっているので、使いやすいのではないかと思います。以上です。</p>
<p>佃委員</p>	<p>道徳につきましては、やはり考える道徳、議論する道徳ということ 키워ドに、そういう学習を通して道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる工夫というものは、各社できているように思います。</p> <p>前回の改訂からやはり評価という問題がございまして、子どもたちが1時間ごと、自分で何を気づいたのかについて、記録、振り返りをするということに重点を置かれてきましたけれども、道徳の授業が成熟していくにつれ、そういったことに時間をとることに関するいろいろな揺れも現場では起こっているのではないかと、教科書の改訂を見ながら感じるところはございませ</p>

(佃委員)

た。

そのような中で、東京書籍では、5つの安心安全、いじめ、情報モラル、命、自分ということについて、心の力持ちになろうというテーマで大きく示しているのも良いですし、さらに実践意欲と態度に迫る発問がなされているのが良いなと思いました。

G a k k e nについては、先ほどもありましたけれども、4つの視点から大きな心を育てよう、私のこと、あなたと私、社会と私、命や自然と私ということで、命を大切にされていると感じましたし、何を学ぶかが一目でわかるようにまとめているところが良いなと思いました。

タイトルの下に題材のはじめにあるキーフレーズがその一言で導入に入りやすくイメージを持って内容に入れるということが選定資料にも書かれていたかと思います。

光文書院は、道徳の時間はこんな時間ですというところからスタートして、いろいろなやり方で考えてみようとか、フローチャートや、ウェブなど、手法を示しているのも良いなと思いましたし、話し合ってみようということで、対話ツールなどを使って、発表のヒントになるような工夫もされました。まとめよう、振り返ろうでは、ノートの使い方や巻末の学びの足跡まで紹介しているのが良く、考えようが2つ、まとめよう広げようが4つの発問のヒントが示されているのが良いなと思いました。

光村出版は、道徳で学ぶ二重の扉ということで、内容項目をわかりやすく紹介されており、気持ちよく話し合うためのコツということで、ああいねとかあいうえおでそういったものが示されていたり、協働的な学びへの配慮がされているなと思いました。それから考えよう、話し合おう、繋げようということで、話し合おうというのが必ず入っているというのも良いなと思いました。特に高学年で命の大切さに多くのページを扱っているのが良いなと思いました。また、学びの準備を導入として、その題材に自然に入っていける工夫があったり、2人の会話を通して、そういったシーンで深く考える場面もたくさんあったかと思いました。

日本文教は、道徳の扉で、自分を中心としてより良く生きるために大切なことについて、イメージしやすい絵で表されていると感じました。学び方についても、気づく、考える・深める、見つめる・生かすという、3つを話し合いや演じる様子、考えをまとめる様子まで写真で掲載していてイメージしやすいなと思いました。タイトルの前に、何について学ぶのが明確に示されていますし、吹き出しの言葉などから題材に入っていくきっかけができていたなと思いました。選定資料でも、導入部から展開、終末まで児童の思考の流れに沿った発問が設定されているとあったかと思います。

教育出版は、道徳ではこんな学びをするよということで、考えよう、深めよう、繋げよう、振り返ってみようということで、矢印で流れを表しているので、わかりやすく学びリンクを活用しようということでは、二次元コード

(佃委員)	<p>から広がる学びを紹介していました。ページの右下に内容項目をわかりやすく示していて、キャラクターの吹き出しで何について考えているのかがわかりやすくなっていると思いました。以上です。</p>
植田教育長	<p>ありがとうございます。 それでは、「なわての子どもたちに」という観点でお願いいたします。</p>
山本教育長職務代理者	<p>どの出版会社もよく工夫されていて、選ぶのが非常に苦労するのですが、まずABCのバランスの問題なのですが、自分のことを考える、他人のことを考える、社会との関わりを考える、あるいは緑とか自然を考えるという部分のバランスについては、光村図書とG a k k e nが大体同じようなバランスであって、他社は、全般的にC、社会との関連を重視しているというところが多かったと思っています。</p> <p>なわての子ども達のこと考えたときに、もちろん社会との関連も大事なんですけども、Bの自然ということについては先ほど他の教科でも申し上げていましたけれども、直接的に体験することができますから、そういうところの体験を言葉で考えているということも、道徳の中では、大事ではないかとは思っています。</p> <p>光村図書については、Bについては学年で継続していくという形になっています。</p> <p>光文書院については、光文書院だけに限らないのですが、この部分が多いのが、6年生の後半に集中しているという印象を持っています。</p> <p>あともう1つ、自分と他者のことを考えたときに、私は道徳の中で、もちろん全教科の中でしなければならないのですが、その基礎基本は道徳の中で養ってほしいのは、いじめに対する考え方かと思っています。</p> <p>これは各社とも非常によく考えていただいている部分ですけれども、東京書籍は段階を追って、その部分をきっちりと考えていただいていますし、日本文教出版は、集中的にいじめを取り上げています。G a k k e nについては、いじめの防止だけでなく、情報モラルまで含めて、1年生から6年生まで系統的に取り上げていくというような形になっていますので、それぞれ工夫をされながらですけれども、多種多様ないじめの取り上げ方をされていると思っています。</p> <p>それからSDG sについては、各社取り上げている部分がいろいろとあるのですが、やはり、1年生から6年生まで各学年が取り上げていくということは大事ではないかと思っています。SDG sのことを取り上げていますよということで、一覧表を載せるということだけではなくて、その内容をきっちりとすべきかと思っています。そういう意味でいうと、日本文教出版、光文書院がそういう部分について、比較的きっちり考えられているのではないかと思っています。</p>

(山本教育長職務代理者)	<p>それから光村図書出版は、日常生活との関連について発展的な学習に取り組めるようにされていると思いますので、今挙げたようなところが、本市にとっては大事な視点かなと考えています。</p>
<p>佃委員</p>	<p>私も職務代理が仰ったように、いじめ等について深く考えること、やはりどんな議論をして、子ども達が何を感じ、どういった態度に繋がるのかといった授業を突き詰めていってほしいと思っています。</p> <p>その中でも教育出版は、解決というところでいじめがテーマの仲間だからという題材の最後に、問題を解決しようとか、問題を作る、解決法を考えるというあたりで、考え方のヒントを示すことで、協働的な学びや、話し合いなどがしやすい工夫がされている、つまり問題を解決する力が養えるなと思いました。</p> <p>日本文教出版は、昔からぐっと深められる教材がたくさんあるのですが、そういった中でも、相手の立場に立って考えるヒントがあって、それを自分の考えとして導きやすくするための活動のヒントがたくさんあるなということと、道徳ノートについては、発問がなくなったために、随分自由度が増して先生方が使いやすくまた子どもたちが書きやすいものになっているかと思えますので、これを使うことで、6年生でしたら例えば35時間の足跡をしっかりと載せることができ、これを先生方も丁寧に、またご家庭でも丁寧に手に取ることができるという点では、道徳ノートがあるというところも、やはり良いのではないかと思います。</p> <p>G a k k e nでは、考えようというところで道徳的価値に迫る発問があったり、実践的態度に繋がられる発問があり、それを深めようということで、子どもたちがどんなことを大切にすれば意見の対立した時に良いのかという大切なことを考えられたり、心のパスポートでさらに考えを深める資料が繋がっていて、学級活動として道徳をするときにアイデアに繋がるのではないかと思います。</p> <p>トータルに言うと、やはり日本文教出版は、本当に導入から展開、そういった子どもたちの思考の流れに沿った発問が設定されている点では、題材について丁寧に扱いがあるという点でも、これから先生方にもっと道徳の授業が深く研究されるためにも使いやすい教科書ではないかと思います。以上です。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>1点、今佃委員が言われた日本文教出版の道徳ノートのことなのですが、先ほどこの道徳ノートの使い方もあるという点を申し上げたのですが、学校意見書に、道徳ノートが分冊になっていることもあり、使いにくいというような意見もあったと聞いています。</p> <p>この道徳ノートの使い方については、改訂されて、従来のように、テーマが書いてあってそこに子どもたちが答えを書くという、そういうパターンで</p>

(山本教育長職務代理者)	<p>はなくて、自分の考えを始めからすべて書いていくという形になっていますので、先生方によっては、ある一面使いやすい先生方もおられるし使いにくい先生方もおられると思うのですが、子ども自身は学びの記憶として、非常に重要な位置を占めると思っています。</p> <p>従って、この道徳ノートをうまく使えることによって、子どもたちの道徳に対する自分の心の成長というのを、感じることができるような、そういうノートになると思いますので、私も、道徳ノートをうまく活用してほしいなと思っています。以上です。</p>
佃委員	<p>職務代理から言っていたように、道徳ノートについてはご意見書の中で、発問がなくなって書きやすいと書いておられた学校がありましたので、ご紹介しておきます。以上です。</p>
植田教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、答申内容を勘案し、皆様方のご意見を求めますと、自由記述式の道徳ノートにより、考え、気づき、深めることが進めやすい。いじめ防止等の集中的扱い、自然、多様性を含むSDGsの取り上げ、子どもたちの思考の流れに沿った発問。これらの観点から、日本文教出版がよりふさわしいと思われませんが、日本文教出版を採択することと決定してよろしいでしょうか。</p>
植田教育長	<p>(「異議なし」の声)</p> <p>異議なしと認め、道徳の教科書は、日本文教出版の教科書を採択することといたします。</p> <p>これで小学校における教科書の採択が終了しました。ここで改めて採択の結果を発表させていただきますが、その前にご意見はありませんでしょうか。</p>
植田教育長	<p>(「なし」の声)</p> <p>それでは、小学校の採択結果を発表いたします。</p> <p>国語、光村図書出版株式会社。 書写、光村図書出版株式会社。 社会、東京書籍株式会社。 地図、株式会社帝国書院。 算数、株式会社新興出版社啓林館。 理科、株式会社新興出版社啓林館。 生活、株式会社新興出版社啓林館。</p>

(植田教育長)	<p>音楽、株式会社教育芸術社。 図画工作、日本文教出版株式会社。 家庭、開隆堂出版株式会社。 保健、G a k k e n。 英語、光村図書出版株式会社。 道徳、日本文教出版株式会社。 以上でございます。教育委員会委員の皆さんご異議はございませんでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p>
植田教育長	<p>ないようですので、令和6年度に四條畷市立小学校で使用する教科書についての審議を終了します。</p> <p>続いて、令和6年度使用四條畷市立中学校教科用図書の採択についてお願いいたします。</p>
広谷教育支援センター長兼 学校教育課指導担当課長	<p>令和6年度に、四條畷市立中学校で使用する教科用図書の採択につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条に「義務教育諸学校において使用する教科用図書については、政令で定めるところにより、政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとする。」とあります。</p> <p>この法の中でいう政令で定める期間とは、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第15条に「法第14条の規定により種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間は、学校教育法附則第9条第1項に規定する教科用図書を採択する場合を除き、四年とする。」とあります。従いまして、中学校の教科書については、令和5年度と同一の教科書を採択することとなります。</p>
植田教育長	<p>ただいまの事務局からの意見につきまして何かご意見はないでしょうか。</p>
山本教育長職務代理者	<p>原案はそれで良いかと思いますが、令和6年度使用の中学校の教科用図書について、特に選定委員会あるいは各学校から何か問題の指摘等はございませんか。</p>
木村教科書選定委員会委員長	<p>今回選定委員会の中で、中学校についても調査・研究を行う中で、校長会、教頭会を通して意見の確認を行いました。採択替えを強く求めるとか変更してほしいという意見はございませんでした。</p>
広谷教育支援センター長兼	<p>事務局といたしましても、学校からの意見は特に聞いてはおりません。</p>

学校教育課指導担当課長

植田教育長

それではここでお諮りします。令和6年度に四條畷市立中学校で使用する教科用図書の採択につきましては、令和2年度に採択された教科用図書と同一のものを採択することと決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

植田教育長

異議なしと認め、令和6年度使用四條畷市立中学校教科用図書は、現在使用されている発行者の教科用図書を採択することとします。以上で令和6年度に、四條畷市立中学校で使用する教科書についての審議を終了します。

それではここまで、教科用図書採択に係るご意見がございましたら、お願いをいたします。

山本教育長職務代理者

令和6年度の教科用図書の採択に関わってきまして、従前と少し異なると感じたところがありますので、感想を3点ほど述べさせていただきたいと思っています。

まず1点めは、教科書の編集方針に関わる問題かと思えますし、本市の採択に関わる問題でもあるのですが、教科書の出版会社の編集方針のキャッチコピーの中に、先生が指導しやすい教科書という文言があります。中にはこの指導用のワークブックを作っていますから、その活用を促すという形での編集方針を述べられている出版会社もあったかと思えます。

本来教科書は先生のために選ぶのではなくて子どものために選ぶべきものだと考えています。この子どもたちの学びが進化し主体的な学びを行えるというのが、教科書の採択の基本と思っていますので、その上で先生が指導しやすいという観点は、もちろん良いかと思えますけれども、私自身はこの採択に関わってそういう観点で選んできたつもりです。従って、単に先生が指導しやすいからこれを選ぶのだという発想自身は、教科書採択にはふさわしくないと思います。同じように学校意見書の中にも同様の文言が今回は特に目立ちました。これは基本的には子どもにこういう力をつけるためには、役立つ教科書が指導しやすい教科書だという観点が必要かというふうに思います。今後は、教育委員会でも、教科書採択の意見を各学校に求める時には、そういう点で、きっちり意見をもらえるようにしていかなければならないと感じています。

2点めは、この間の教科書を読ませてもらい、どうしても固定観念の刷り込みが目立ちます。歴史観あるいは思想・イデオロギーの問題等については、検定を通ればそれは特に問題はありませんので、それで良いかと思えますけれども、それ以外で文章にはない固定観念の刷り込みが散見いたしました。このこと自身は、今回の採択には何の影響も与えていないと思えますけれども、たとえば夏休みどう過ごしましたかということに対してイラストがあり

(山本教育長職務代理者)

ます。デパートの屋上の遊園地で、観覧車に乗って遊んだ、田舎の縁側でスイカを食べた等々のイラストはあります。果たして今の子どもたちの実態に合っているのだろうかというのが気になりました。花見をする人は、老人と女性だけです。まちのイラストには老人が1人しか描かれていません。あとはみんな若者です。あるいは、障がい者の姿には、そうでない出版会社もありますが、視覚障がいの方は帽子を被って黒のサングラスです。果たして今現実的に視覚障がいの方はそういう姿で町中を歩いておられるのでしょうか。

全国の名所、名物がありました。舞子・忍者。これは外国人の偏見を呼ぶのではないのでしょうか。祇園・忍者の里でなぜ駄目なのでしょうかとというようなことを考えました。言葉だけの問題ではなくて、こういう子どもたちには、イラストあるいはアニメでの視覚的に訴えるところが非常に大きいと思いますので、やはりそういう固定観念を刷り込みしていくとどうなのかと言いますと、差別を助長していくということに繋がりますのでそういうことの配慮が必要ではないかと考えます。

3点めは、今回もそうですけれども、今後さらにデジタル化が進んでいきます。そのデジタル化についてもいろいろ課題を感じました。例えば、二次元コードです。これは各ページに二次元コードが書いていますが、その項目が分かるのはまだしも内容までの簡単な説明がない会社が多かったのです。二次元コードはすごい数があります。多いところは、頑張って二次元コードを作っていただいて、例えば600とか作っていただいた出版会社もあるかと思えますけれども、子どもたちがその二次元コードを見る時に、これは何の二次元コードかということが、もちろんそのページを全部読めば分かるのですが、やはりそのあたりで例えば植物の芽の二次元コードですよというようなことを、簡単な説明があれば子どもだけは分かりやすいかと思えます。

それから先ほども言いましたが、二次元コードで先生がワークブックを載せる時に全部合ったワークブックを使うと画一的な指導なり、確かに先生方の負担は少ないのですが工夫は全くない。これが果たしてこういう最適な学びに繋がるのかということの心配をしています。また、まとめの二次元コードですが、答えがあります。ある出版会社は答えを入力すればマルとかバツが出てくるようにしていただいています。ただ、そういう場合は良いのですが二次元コードを開くと答えがパッと出てきているところもあります。子どもたちはこれからデジタル化に進んでいく中で、考えなくても答えがわかるという発想になり、今後デジタル教科書に移行しなければなりませんから、大きな課題と思えますので、工夫がいるのではないかとこのように思っています。今回の教科用図書の採択には直接関係がないのですが、各社の教科書を読ませていただいてそういう感想を持ちました。

植田教育長

それでは、これもちまして、議案第20号、令和6年度使用四條畷市立学校教科用図書の採択についての審議を終了します。本日以降、事務局の方

(植田教育長)	<p>から、大阪府教育委員会に対して報告を上げていただきます。</p> <p>なお、次の報告案件に移る前に、一旦ここで暫時休憩させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p>
植田教育長	<p>それでは、これより暫時休憩に入ります。</p> <p>(暫時休憩)</p>
植田教育長	<p>それでは休憩を閉じまして、これより報告案件に入ります。</p>
古市教育総務課長	<p>先ほどまでご審議いただきました議案第20号につきまして、教科用図書の出版社の編集業務に携わっていることから尾崎委員が議事に出席できませんでしたが、これより報告案件に入りますので、尾崎委員にご出席いただいておりますことをご報告させていただきます。</p> <p>教育長及び、全教育委員の出席となり、改めまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定に基づき、会議が成立していることをご報告いたします。</p>
植田教育長	<p>はい、承知いたしました。尾崎委員、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、報告第12号令和5年度教育委員会事務局職員人事についてを議題といたします。事務局から本件の内容説明を願います。</p>
古市教育総務課長	<p>報告第12号令和5年度教育委員会事務局職員人事について、教育長に対する事務委任規則第2条第2項の規定に基づき、特に緊急を要するため委員会を招集する時間的余裕がなかったため、教育長をして臨時に代理いたしましたので、同規則同条第3項の規定に基づきその内容を報告いたします。</p> <p>令和5年7月18日付けの人事異動の詳細については、配付資料のとおりでございます。</p>
植田教育長	<p>この件について、確認質問等ありますでしょうか。</p> <p>(「なし」の声)</p>
植田教育長	<p>それでは、次に移ります。</p> <p>報告第13号四條畷市教育委員会指定管理者選定・評価委員会委員の委嘱についてを議題といたします。事務局から、本件の内容説明を願います。</p>

神本スポーツ・文化財 振興課長	<p>報告第13号四條畷市教育委員会指定管理者選定・評価委員会委員の委嘱についてでございます。</p> <p>標記の件について、委員の任期満了に伴い、新たに当該委員を委嘱する必要が生じたため、四條畷市公の施設に係る指定管理者の指定手続等に関する条例第16条第4項の規定により、指定管理者選定・評価委員会委員を別紙のとおり委嘱しましたのでご報告いたします。新旧対照表をご覧ください。2人の委員が新任となっており、性別の男女比率は4対1です。委嘱期間につきましては、令和5年8月1日から令和7年7月31日までの2年間でございます。</p>
尾崎委員	<p>ご報告にもありましたが、新旧対照表にも星印で注記されていますが、男女比率が前は2対3で女性の方が多くいらっしゃったわけですが、今回は4対1ということで男性が多くなっています。このことは選定・評価委員会の委員構成において、何か不都合であるとかそういうことは考えられないのでしょうか。その点について、質問申し上げます。</p>
神本スポーツ・文化財 振興課長	<p>今回の委員の選任におきましては、第4号委員ということで、高橋委員につきましては四條畷市立公民館の館長経験者になりまして、専門性のある方ということで選任しております。岡本委員につきましては、田原地域のコーディネーターであり本市スポーツ推進委員や青少年指導員もされていることから、様々な施設利用者ということで選任しており、男女比率が4対1ではありますが、このような選任をいたしたところです。</p>
植田教育長	<p>この件について、確認質問等ありますでしょうか。</p> <p>(「なし」の声)</p>
植田教育長	<p>それでは、次に移ります。</p> <p>報告第14号史跡飯盛城跡保存活用計画（原案）の策定についてを議題といたします。事務局から本件の内容の説明を願います。</p>
實盛スポーツ・文化財 振興課長代理	<p>報告第14号史跡飯盛城跡保存活用計画（原案）の策定についてでございます。</p> <p>標記の件について、令和3年10月に国史跡に指定された飯盛城跡を適切に次世代へ継承するため、本市と大東市の2市で「史跡飯盛城跡保存活用計画（原案）」を作成したことを報告いたします。</p> <p>計画の概要についてご説明いたします。別紙の原案の目次をご覧ください。この計画は、文化庁で定められた第1章から13章と資料編で構成しており、史跡飯盛城跡の現状と課題を整理したうえで、今後の保存、活用を進めてい</p>

(實盛スポーツ・文化財振興課長代理)

くための指針となる基本的なものです。

次に、10ページをご覧ください。この原案策定につきましては、6人の有識者で構成する史跡飯盛城跡保存活用計画策定委員会において、文化庁調査官、大阪府教育庁文化財保護課、両市の関係部署、飯盛城跡が所在する地域の市民にオブザーバーとして参加していただき、令和4年5月から令和5年7月までの5回の委員会において進めてまいりました。

今後は残り2回の委員会において、委員や文化庁調査官、大阪府教育庁文化財保護課のご指導のもと、パブリックコメントでいただいたご意見など、内容の検討、修正を加えたうえで、令和5年度末に文化庁の認定を受ける予定で策定を進めてまいります。

なお今後、この原案に対する市民意見公募手続（パブリックコメント）を別紙のとおり実施することを併せて報告いたします。別紙をご覧ください。募集期間は、令和5年8月1日火曜日から8月31日木曜日までです。対象者は、市内在住・在勤・在学の人、市内に事業所を有する個人・法人、地権者などの利害関係者です。資料の閲覧場所は、市ホームページ、市役所本館2階情報公開コーナー、スポーツ・文化財振興課、田原支所、四條畷図書館、田原図書館です。提出方法は、意見提出用紙に、住所、氏名、電話番号、意見を記入し、持参、郵送、FAX、メールのいずれかでスポーツ・文化財振興課まで提出としております。また、電子申請フォームからも提出できます。なお意見募集につきましては、大東市とともに実施し、原案につきましては、8月1日火曜日から市ホームページなどでご覧いただけます。また、いただいたご意見は市ホームページなどで公表いたします。

山本教育長職務代理者

この保存活用計画を見させていただき、これだけ大部な計画を作るに際しては、大東市、四條畷市の関係部局にとりましては非常に大変なことだったと思います。特に、市の関わった皆さんには感謝申し上げたいと思います。

1点感想で、1点が質問です。

大東市と四條畷市の指定や登録文化財は、これだけたくさんあるのかということ、特に大東市に国指定の文化財がたくさんある部分について感動いたしました。また、保存の活用の大綱を読ませていただき、非常によくできていると思います。飯盛城跡の価値を守って次世代に伝えて、歴史から学んで未来に伝える地域世代間交流の拠点としての公開活用を行うという計画の90ページにある大綱に書かれている内容のとおりだと思いますし、これが本当にこれから未来に伝えていくものとして大事にしていかなければならないと思いました。

それを基にして、質問は計画の80ページになりますが、活用の課題があります。これはいろいろあるのですが、その中で教育的活用に関する課題と書かれているところがあり、もちろんこれは郷土教育のことですが、当然これを本市でもしていかなければならないと思っています。すでに市の方では

(山本教育長職務代理者)	郷土教育という形でもう10年ぐらい前からいろんな取組みをし、そういうパンフレットの的なものも作っていただいたと認識をしています。社会教育の点からは良いかと思うのですが、学校での郷土教育と書かれているところについて、何か具体的なイメージ、こういったものというのがありますでしょうか。
広谷教育支援センター長兼 学校教育課指導担当課長	郷土教育副読本を活用しまして3、4年生で郷土教育の推進を図っております。飯盛城のことにつきましても、今回の国指定のことで受けまして、改訂をしたところであります。
山本教育長職務代理者	今回の計画については、大東市と四條畷市両市が協力していくという視点がありますので、できることであれば私としては、大東市と四條畷市とで飯盛城跡の保存と活用について、同一の教材で同じような形で教えていくことによって、飯盛城跡を抱える大東市と四條畷市の子どもたちが他市とは違って、そういうことがわかるんだというようなことが、好ましいのではないかと考えています。
	例えば、郷土教育パンフレットを作ってやっていっても、実際の活用は学校任せになっている部分がありますでしょうし、従前のように校外学習がなかなか今はオープンにされていると思いますが、自粛している中では、実際に飯盛城跡に行くということもしんどい部分があるだろうと思いますので、できれば両市でそんなにすごいことをする必要はないですが、日常的な教育活動の中で統一してできるという視点が大事というに考えていますので、ぜひそういう協力関係を保ってしていただけたらと思っています。こちらは要望です。
植田教育長	この件について、確認質問等ありますでしょうか。
	(「なし」の声)
植田教育長	それでは、その他の案件に移ります。 事務局からございましたらお願いいたします。
広谷教育支援センター長兼 学校教育課指導担当課長	6月の定例会にて、第三者のみで構成される組織で調査を行う方向で進んでいることをお伝えしました件について、いじめ重大事態に関する調査を再調査委員会を設置して改めて調査することになりましたことを報告させていただきます。また、市内中学校におきまして、いじめ防止対策推進法第28条第1項第2号案件となる事象が生起しておりますことも報告させていただきます。今後、学校、保護者と連携を図りながら対応してまいります。

植田教育長	この件について、確認質問等ありますでしょうか。 （「なし」の声）
植田教育長	この他に事務局から何かありましたらお願いします。 （「なし」の声）
植田教育長	それでは、本日予定の案件の審議はすべて終了しました。 これをもちまして、定例会を閉会いたします。本日は長時間にわたり、議事を進行いただき、どうもお疲れ様でございました。これにて終了いたします。

上記会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するためここに署名する。

令和5年12月27日

四 條 畷 市 教 育 長 植 田 篤 司

四條畷市教育委員会教育委員 山本 博資